

不空訳

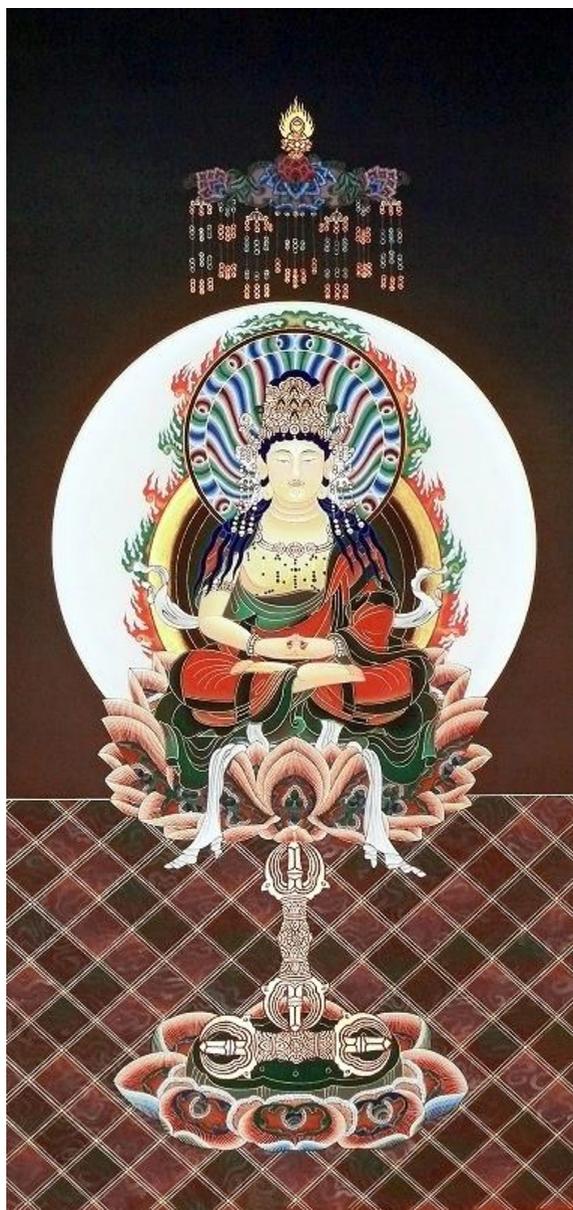
無量壽如来觀行供養儀軌

觀想法

觀想法における自己凝視

八龍雲好久自行次第▽

本尊 紅玻璃色無量壽如來



無量壽如來觀行供養儀軌 傳紅頰梨秘法

爾時金剛手菩薩。在毘盧遮那佛大集會中。從座而起合掌恭敬。白佛言。世尊。我為當來末法雜染世界惡業衆生。說無量壽佛陀羅尼。修三密門證念佛三昧得生淨土入菩薩正位。不以少福無慧方便得生彼刹。是故依此教法正念修行。決定生於極樂世界上品上生。獲得初地。若在家出家願生淨土者。應先入曼荼羅得灌頂已。然後從師受念誦儀軌。

その時に金剛手菩薩は、毘盧遮那仏の大集会の中におられて、座よりたつて合掌し敬い尊び、(毘盧遮那)仏に申し上げられた。世尊よ。私はまさに来たらんとする末法の雑染世界にすむ、悪業(多き)衆生の為に無量寿仏の陀羅尼を説き、密教(三密門)

を修行させ、念仏三昧を証し、浄土に生まれ菩薩の正位に入らしめましょう。少福無恵の、手立て(〓方便)では、彼の(浄土の)国には生まれることはできない。

それゆえ、この教え(〓密教)にもとづいて疑いなく(〓正念)修行したならば、必ず極楽世界上品上生にうまれ、初地を得ることができぬ。

もし(一般の)在家の人であっても、出家した(僧侶)であっても、浄土に生まれたいと願う者は、まず曼荼羅に入りて灌頂を受け終わって、その後師に従って(無量寿如来)の念誦儀軌を受法すべきである。

●先 道場莊嚴 如常

或於勝地或隨所居。塗拭清淨建立方壇。上張天蓋周匝懸幡。

壇上分布八曼荼羅。磨白檀香用塗聖位。於檀西面而安無量壽像。持誦者於壇東坐。面西對像而坐。或敷茅薦或坐卑脚小床。每日三時散種種華燒種種香置二闕伽。或用盆盃及金銀銅石瓷瓦等器未經用者。盛滿香水置於壇上。於壇四角安四賢瓶。燒香燈明塗香飲食隨力所辯。一一加持愍重供養。

（その後、修行を）勝地において行い、あるいは居住しているところにしたがって、（その場所を）塗り拭いて清浄にし、四角の壇を作って、上に天蓋をはり、巡らして旗を懸け、壇の上に八曼荼羅を分布し、白檀香を粉にして、それをもって聖位に塗り、壇の西の面において無量寿如来の像を安置し、修行者は壇の東に座って（修行者の顔を）西の方に向けて（無量寿如来の）像に對しなさい。

あるいは茅の敷物を敷き、或いは足の高くない小さな床に座りなさい。毎日三回、様々な華を散らし、二つの闕伽(器)をおく。或いは盆、杯および金銀銅石瓷瓦などの器でまだ他の用途に使っていないものを用いて、香水を(器に)満たして盛り壇の上に置き、壇の四隅には四つの賢瓶を置き、焼香、灯明、塗香、飲食を(修行者の資)力によって調べて、一々加持して丁重に供養しなさい。

●次 入堂観 淨三業

行人毎日澡浴著新淨衣。或用真言加持以為澡浴。即思惟觀察。一切有情本性清淨。為諸客塵之所覆蔽。不悟真理。迷失菩提。淪溺生死。受無量苦。是故説此三密加持。令自他皆得清淨。

修行者は毎日して澡浴して思惟し熟考しなさい。

すべての生きとし生ける者は、その本質は清浄であるが、諸々の他かから来た煩惱によって覆われ隠されて真理を悟っていない。

悟りを迷失して生死（の苦海）に溺れ、無量の苦を受けている。それ故、三密加持を説いて、よく自（分）も他（者）もすべて清浄になることを得させよう。

即以二手蓮花合掌。誦淨三業真言三遍。真言曰

即ち両手をもって蓮華合掌して、淨三業の真言を唱えること三遍しなさい
真言にいう。

唵(引)娑嚩(二合)婆嚩瓠(詩聿反)馱(引一)薩嚩達磨(入引二)娑
嚩(二合)婆(去)嚩戍(引准上)度唎

オンソハハンバシユダサラバタラマソハハンバシユドカン

うしやふとやがれまのひしやふとやがれ

由此真言加持故。即成清淨内心澡浴。

この真言の不思議な力が加わる(〓加持)ことにより、すなわ
ち清淨内心の澡浴となる。

●次 壇前普禮

毎入道場時。對本尊前端身正立。蓮花合掌閉目運心。想在極
樂世界。對無量壽如來并諸菩薩眷屬。則以身五體投地。想於一

一佛菩薩前恭敬作禮。即誦普禮真言曰

道場に入るとき毎に、本尊の、み前に対して（修行者は）身をただして、正しく立ち蓮華合掌して目を閉じて、心をめぐらして観想しなさい。

（修行者は）極樂世界にあつて、無量寿如来ならびに、様々な菩薩や眷属に對面申し上げていると。

即ち、自分自身の五体をもつて地に投（じて本尊を礼しなさい）。観想しなさい、一々の菩薩のみ前にあつて恭敬して礼拝申し上げると。すなわち普札の真言を唱えて曰く。

いま・ここを道場となし、内心に輝く不生の佛心を以て、本尊（本不生）に心を向けて、禮拝する。

即ち、真言にいう。

唵(引)薩嚩怛他(引)葉哆(一)播(引)那滿娜曩(上)迦嚕弭(二)
オンサラバタタギヤタハンナマンナノウキヤロミ

うん ば い ぱ た い ぱ た ゑ じ ん ぶ じ ぶ

●五悔

即右膝著地合掌當心。虔誠發露懺悔無始已來一切罪障。則隨喜諸佛菩薩聲聞緣覺一切有情所修福業。又觀十方世界所有如來成等正覺者。請轉法輪。所有如來現涅槃者。請久住世不般涅槃。又發願言。我所積集。禮佛懺悔隨喜勸請。無量善根以此福聚迴施一切有情。願皆得生極樂世界。見佛聞法速證無上正等菩提。

すなわち、右の膝を地面につけて、掌を合わせて胸にあてて、謹んで誠をもって（||虔誠）無始以来のすべての罪障を隠さずに申し上げて懺悔し、すなわち諸仏や菩薩、声聞、縁覚すべての生きとし生けるものが行うところの福業を喜ぶ。また、観想しなさい。十方世界のあらゆる如来、悟りをひらかれた者には、法輪を転じたまえと請い、あらゆる如来の涅槃に入らんとしておられる者には、久しくこの世に住して涅槃に入らないようにとお願ひ申し上げる。また誓い（||願）を立てていう。私が集めたところの善根、（すなわち）仏を礼し、懺悔し、随喜し、勧請した、この福の聚りをもって、すべての生きとし生けるものに廻し施し、心から願うことは皆が極楽世界に生まれることのできて、仏を見て法を聞いて速やかにこの上ない悟りを開かんとを。



●次 三金観 (金剛合掌)

光り輝く三本尊を観想する。

潜象と現象の只中にある光（マカバ・トーラス五鈷金剛杵）を
観想する。

いまここに、朝日山萬歳楽院法圓寺本尊大日如来・補陀洛山



善明院歡喜寺本尊阿弥陀如来・大光山福壽院正徳寺本尊阿弥陀如来ましまして、遍照金剛紅玻璃色阿弥陀如来を現前せしめ給ひ、摩訶摩尼○十○の大法輪○十○を転ぜられ、八葉蓮台○十○十○十○を加持せられ給う本初不生○の源流たる普賢金剛薩埵 摩訶毘盧遮那佛○十○に帰命し奉る。貴きかな、佛陀親説本初不生の深旨、ここに、明澄なり。

先験なる○の本初不生・普賢金剛薩埵より、潜象なる金剛界大日如来○十○、胎藏大日如来○十○、両部不二に加持互換重合せられ、○十○現前し、○十○なる八幅輪○十○十○を転ぜられ、天地○十○いまここに開關せられ給ふなりと。

先験なる本初不生○より、時々現前し、十種神寶○十○、刻々に、加持（互換重合）し給ひ、金剛「空象」・胎藏

〔潜象〕 両部不二の源流十十十十 イマ十十十十 ココ
十十十十十十十十十十に森羅万象を創発し給ふなりと。

願わくば、遍照金剛普賢金剛薩埵、紅玻璃色阿弥陀如来、全
ての十十十十十十、十十十十十十十十十十をして、本初不生に覚醒めざ
めしめ給へ。

●次 着座・塗香

然後結跏趺坐或半加坐。右押於左。以香塗手。

しかして後に、結跏趺坐あるいは半跏坐にしなさい。右をも
つて左を押す。様々な香を砕いたものを、修行者の手に塗りな

さい。

想磨瑩五分法身

いま・ここに、独坐し、あるがままに自己を觀想（凝視）することによって、無始以来の罪障をうみだしてきた自我に気づき、心身を清らかならしむ。

●次 淨三業

即以二手蓮花合掌。誦淨三業真言三遍。真言曰

唵(引)娑嚩(二合)婆嚩訶(詩聿反)馱(引一)薩嚩達磨(入引二)娑嚩(二合)婆(去)嚩戍(引准上)度唎

持感応同交（互換重合）し、すべてが如来のいのちなることを
観想（自己凝視）する。

伝えにいう。

この真言の不思議な力が観想（凝視）に加わり、清浄内心の澡
浴となり浄められる。

●次 三部被甲護身

佛部三昧耶

先結佛部三昧耶印。以二手虚心合掌。開二頭指微屈。各附中
指上節。又開二大指。各捻二頭指下第一文。結印成已。想無量
壽如來三十二相八十種好了了分明。即誦佛部三昧耶真言曰

まず仏部三昧耶の印を結びなさい。(その印は)両手をもって
虚心合掌して左右の人差し指を開いて少し屈して、おのおの中
指の上の節につけよ。また、両手の親指を開いて人差し指の下
の第一の文をおせ。印を結び終わって観想しなさい。無量寿如
来の三十二相・八十種好がはっきりとしていると。すなわち、
仏部三昧耶の真言を唱えている。

唵(引)怛他(引) 誑覩(引一)納婆(二合)嚩(引)耶袞嚩(二合)賀
(引)

オンタタギャトウドハンバヤソハカ

ウイロハナキヤヒサハ

誦三遍或七遍。安印頂上散。

三遍或いは七遍を唱えて印を頂上に安置して散じなさい。

由結此印及誦真言。警覺佛部一切諸佛。皆來集會加持護念修真言者。速令獲得身業清淨。罪障消滅福慧增長

この印を結びおよび真言を唱え仏部のすべての如来を驚かし覚醒(≡驚覚)申し上げることによって、(すべての如来は)みな来りて修行者に不思議な力を加え(≡加持)守護し、速やかに(修行者の)身体の働きは、清淨となり罪障は消滅し、福德と知恵とは増長する。

頭上の中央から如来の無量の光りが降り注がれていることを観想(凝視)する。

伝えにいう。

如來が來りて、修行者に不思議な力を加え、守護し、速やかに修行者の働きを清浄とならしめ、罪障は消滅し、福德と知恵を増さしむる。

●次 蓮華部三昧耶 八葉印

次結蓮花部三昧耶印。二手虚心合掌。二大指二小指各頭相捻。餘六指微屈。如開敷蓮花形。即成。結此印已。想觀自在菩薩相好端嚴。并無量俱胝蓮花族聖衆圍遶。即誦蓮花部三昧耶真言曰

次に蓮華部三昧耶の印を結びなさい。両手を虚心合掌にして、左右の親指と左右の小指との端をお互いに着けて、それ以外の

六指(Ⅱ両方の人差し指と中指と薬指)を少し屈めて、蓮華の花が開いた形のようにしなさい。(すると印が)完成する。この印を結び終わって観想しなさい。観自在菩薩の相好がみごとであり、多くの蓮華族の聖なる者達を取り囲んでいると。

すなわち、蓮華部三昧耶の真言を唱えていう

唵(引)跛那謨(二合引一)納婆(二合)嚩(引)耶娑嚩(二合)賀(引二)

オンハンドボウドハンバヤソハカ

うんばやそはんばや

誦三遍或七遍。加持安印於頂右便散。由結此印及誦真言。警覺觀自在菩薩及蓮花部聖衆。皆來加持行者。獲得語業清淨。言

音威肅。令人樂聞得無礙辯才說法自在

三遍或いは七遍を唱えて（修行者に）不思議な力を加え（加持）て、印を（修行者の）頂の右に安置してすなわち散じなさい。この印を結びおよび真言を唱えて、觀自在菩薩および蓮華部の聖衆を驚かし覚醒（||驚覚）申し上げることによって、（蓮華部の聖衆は）みな来って修行者に不思議な力を加え（||加持）言葉の働きを清浄にすることを得せしめ、（修行者の）言葉の音は尊嚴があり厳かで整い、他の人をもって聞きたいと思わしめ、無碍弁才で説法は自由自在となる。

頭上の右から觀自在菩薩の光りが降り注がれていることを觀想する。

伝えにいう。

觀自在菩薩および蓮華部の聖衆が来りて、修行者に不思議な力を加え、對話の働きを清浄とならしめ、慈悲深くならしめる。

●次 金剛部三昧耶

次結金剛部三昧耶印。二手左覆右仰。令背相著。以右大指又左小指。以左大指又右小指。中間六指縛著手腕。如三股杵形。即成。結印當心。想金剛藏菩薩相好威光。并無量執金剛眷屬圍遶。即誦金剛部三昧耶真言曰

次に金剛部三昧耶の印を結びなさい。(その印は)二つの手(の内)左手はうつ伏せ、右手は仰向けて(両手の)背をお互いにつけしめる。右の親指をもって左の小指に交え、左の親指をも

って右の小指に交え、（左右の人差し指、中指、薬指という）中間の六指は手腕に広げて着けて、三股杵のかたちのようにしなさい。そうすると（印は）完成する。印を結び胸に当てて観想しなさい。

金剛蔵菩薩はその姿に威光があって、ならびに無量の金剛を執るもの（＝執金剛）、眷属が取り囲んでいると。即ち、金剛部三昧耶の真言を唱えている。

唵（引）嚩日嚩（二合引一）納婆（二合）嚩（引）耶娑嚩（二合）賀（引二）

オンバゾロウドハンバヤソハカ

おんばぞろうどはんばやそはか

誦三遍或七遍。加持安印於頂左便散。由結此印及誦真言。警覺金剛藏菩薩并金剛部聖衆。皆來加持行者。獲得意業清淨證菩提心。三昧現前速得解脫

(真言を)三遍或いは七遍唱えて(修行者に)不思議な力を加えて(〓加持)、印を(修行者の)頂の左に安置して即ち散じなさい。この印を結び真言を唱えて金剛藏菩薩並びに金剛部の聖衆を、驚かし覚醒(〓驚覚)申し上げることによって、(金剛部の聖衆は)みな来って修行者に不思議な力を加え(〓加持)、心の働きを清浄にすることを得さしめ、(修行者は)菩提心を証し三昧が現前して速やかに解脫をえる。

頭上の左から金剛藏菩薩の光りが降り注がれていることを観

想する。

伝えにいう。

金剛藏菩薩並びに金剛部の聖衆来って修行者に不思議な力を加え、心の働きを清浄にすることを得さしめ、修行者の菩提心を現前せしめ、速やかに不生の仏心を開かしめる。

●次 被甲護身

次結被甲護身印。二小指二無名指。右壓左内相叉。二中指直豎頭相拄。二頭指屈如鉤形。附中指背勿令相著。二大指並豎捻名指。即成。結印當心誦真言。印身五處各誦一遍。先印額。次右肩。次左肩。印心及喉。是為五處。即起大慈悲心遍緣一切有情。願皆被大慈悲莊嚴甲冑。速令離諸障難。證得世間出世間上

上殊勝成就。如是觀已。即成被金剛甲。一切諸魔不敢障難。護身真言曰

次に被甲護身の印を結びなさい。(その印は)両方の小指と薬指、右をもって左を押し内側にあい交えて、両方の中指を真っすぐ立てて指頭をささえ(合わす)、左右の人差し指を屈めて鉤の形のようにし、中指の背中に着けるほどにするが(ほんの少し間を開けて)着けてはいけない。両親指を並べ立てて薬指を押すと完成する。印を結び胸に当てて真言を唱えて(修行者の)身の五処を印(でもって触れ)なさい。

各々(真言)一遍を唱えて、まず額を印(でもって触れ)なさい。次に右の肩、次に左の肩、胸及び、喉を印(でもって触れ)よ。これを五処とする。すなわち、大悲の心をおこして、遍く

すべての生きとし生けるものに対して認識しなさい。大慈悲で飾られた甲冑を着用させて、速やかに様々な障難を離れ、一般世俗(≡世間)と精神的な世界(≡出世間)の特に優れた成就をえさしめようと。このように観想し終わると (修行者は)金剛の甲を着用したことになる。

すべての様々な魔は、(修行者に)障難することはない。
護身の真言にいう。

唵(引)嚩日囉(二合引)儼爾(二合一)鉢囉(二合)捨(万叶反引)跋
諺(二合)野娑嚩(二合)賀(引二)
オンバザラギニハラチフハンダヤソハカ

ॐ व ह्रि वृ ह य प्र ष क

由結此印誦真言。慈心愍念力故。一切天魔及諸障者。悉見行

人威光赫奕由如日輪。各起慈心不能障礙。及以惡人無能得便。煩惱業障身不染著。亦護當來諸惡趣苦。疾證無上菩提。

この印を結んで真言を唱えて慈悲の心をもって哀れみ思う力によってすべての天魔及び諸の障（礙をなす）者は、悉く修行者の威光が光り輝くさまは太陽（日輪）のようであることを見て、障礙者は慈悲心を起こして（修行者を）障礙することができなくなる。悪人はよく便りをする事がない。

煩惱や業障は身に染めつく事はない。また来世の、諸の悪い世界の苦るしみを離れて速やかにこの上ない悟りを開く。

修行者の身体の五処がマカバの光明に充たされることを觀想（凝視）する。

各々(真言) 一遍を唱え、まず額、次に右の肩、次に左の肩、胸及び、喉にマカバの光を觀想する。マカバの光明が自身の五処を大宇宙大自然界の五処と加持(互換重合)せしめ、大悲の光りに充たされ、遍くすべての生きとし生けるものと自身が一体であることを觀想せしめる。大慈悲の光に包まれ、あらゆる魔等は、慈悲の心に目覚め、障難を及ぼすことはできない。伝えにいう。

真言を唱え觀想(自己凝視)すること、悉く修行者の威光が光り輝く太陽のように慈悲の光りに満たされ、すべての天魔及び諸の障礙をなす迷える魂は、慈悲心を起こし、修行者を障礙することをやめ、悪人からも遮断される。

煩惱や業障が身に染めつく事はなく、現象と潜象における多次元なる世界において、苦るしみが解放され、速やかにこの上

ない安らぎに導かれる。

●次 加持香水

先以左手覆塗香器蓋 次取洒水器蓋置塗香器蓋跡 次左手取
念珠移右手 次左大頭二指 摘四點二十一處 次右手作三股印
誦軍荼利小咒加持二十一返

唵(引)阿密利帝吽發吒

真言を唱えて、本不生と大宇宙・大自然界の正反(順逆)の
マカバが加持感応同交(互換重合)し、そのまったただ中にある
ことを観想する。

即ち、真言にいう。

オンアミリテイウンハッタ

ウツリヒトイカスルヤ

●次 ランバン加持取散杖ラン逆バン順加持各二十一返

即ち、正反のマカバが互換重合し、螺旋流動し、刻々に新生創造される大宇宙を観想する。

即ち、真言にいう。

ラン・バン

いん

●次 灑水三度

想香水變成乳水 又觀水本性清淨 諸法亦本性清淨 即水灑
自身及壇場供物内外等

この加持により、潜象と現象が加持感応道交（互換重合）し、
大宇宙・大自然界を生み出すマカバ・トーラス流動の只中にあ
って、自身は、香ぐわしき慈愛の光りに満たされ、本来清浄な
る大海の独滴、即ち、不生の佛心なるを觀想する。

●次 加持供物 三股印 加持三返

唵播娜迦哩灑喻嚩曰羅吽

オンハンダギャリシャユバザラウン

即依加持成清浄妙供

●次 発願(心被授)

唵 空寂なる不生の佛心 \ominus の \oplus 由 \oplus より 大宇宙大神靈 \oplus ッ
ダ・メタトロン・アミリタとして現出し 朝日山萬歳樂院法圓
寺本尊大日如来・補陀洛山善明院歡喜寺本尊阿弥陀如来・大光
山福壽院正徳寺本尊阿弥陀如来の三本尊慈悲を被り、遍照金剛
紅頗梨色阿彌陀如来に導き給ふ 本初不生のダンマ(正法)の
流れ マハー ヴァイローチャナ 摩訶毘盧遮那如来に歸命し
奉る

まさに 願わくは 六大法身 すべてのイノチノマリ \oplus の \oplus
 \ominus の \oplus ・イキ \oplus の \oplus ・トキ \oplus の \oplus ・トコロ \oplus の \oplus を加持し給ひて
法眼圓明なる 大慈大悲 \oplus の \oplus の \oplus の叡智の光明に満たし 不生

の佛心圓満成就せしめ給へ

ビルシャナブツ　ビルシャナブツ　ビルシャナブツ

ヴェカラー　ゼエルゼ　ヴェアマル

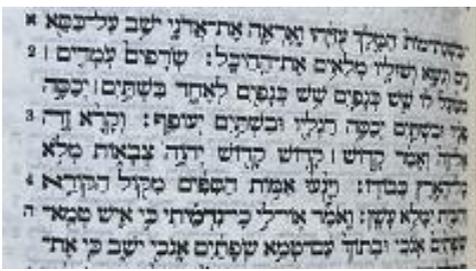
カドーシユ　カドーシユ　カドーシユ

ヨッドヘー　ヴォツドヘー　ツエヴァオツト

メロー　ホル　ハアレツ　ケヴオドー

ギヤーテアー　ギヤーテアー　ハーラーギヤーテアー

ハラソーギヤーテアー　ボージソワカ



●次 淨地 (金剛合掌)

アラジユバギヤタクサラバタラマク

ヱカニカキマセク

●次 淨身 (蓮華合掌)

オンソワハンバシユダサラバタラマク

ウミカキマセク

●次 小金剛輪 (金剛合掌)

オンバザラシヤカラウンジヤクウンバンコク

ウミカキマセク

●次 表白

左手取爐持添念珠金二打表白限開白座唱之

敬 真言教主大日如来 金剛界会三十七尊 九会曼荼羅諸尊聖
衆 並 大悲胎藏八葉蓮台 十三大院塵刹聖衆 無量壽化主阿
彌陀如来 觀音勢至諸大薩埵 般若理趣甚深妙典 三國傳燈諸
阿闍梨耶 總 仏眼所照帝網重重 一切三寶境界而言

夫以

性德本有真理

乖百非而絕離

曼荼內證實談

超四句而冲邈

皇哉上乘

誰敢得稱

謝秘密藏器量

傳紅頗梨秘法

擇定良辰

排備供具

豫企三時行業

將積一生薰修

緯既愍懃

福豈唐損

然則

善因速熟

除無始罪根

靈感潛通

獲最上悉地

乃至群萌

平等利益 敬白

●次

神分 開白座除令法久住利益人天云々句

開白句三密修行處滅罪生善砌云々句

奉始外金剛部云々入神分此時金不打

第二座已下取爐金二打直唱令法久住已下

總自界他方權實二類 各為法樂莊嚴

般若心經 一打

大般若經名 一打

無量壽佛名 一打

奉為高祖弘法大師宗祖興教大師等三國傳燈

諸大祖師普賢行願速疾圓滿

摩訶毘盧遮那佛名 一打

奉為今上陛下天長地久

藥師寶號 一打

●次 祈願 置爐摺念珠 唱祈願文

仰乞真言教主大日如来兩部界会諸尊聖衆各大悲利生本誓不違
越 所設妙供納受護持弟子福壽增長慧學精進興法利人無邊善願
決定成就 畢取爐

摩訶毘盧遮那佛名

一打

兩部界会諸尊聖衆

一打

紅頗梨色阿彌陀佛名

一打

為世界平和萬民豐樂

摩訶毘盧遮那佛名

一打

為國家安穩興隆佛法

金剛手菩薩名

一打

為天下法界平等利益

觀自在菩薩名

一打

置爐

●次 恭禮三寶 金剛合掌 以下三昧耶戒迄念珠一匝為弟子外
懸左大頭間

一切恭敬敬禮常住三寶

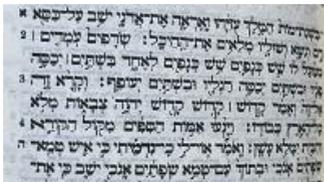
ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマル

カドーシユ カドーシユ カドーシユ

ヨッドヘー ヴォツドヘー ツエヴァオツト

メロー ホル ハアレツ ケヴオドー



ギヤーテー　ギヤーテー　ハーラーギヤーテー
ハラソーギヤーテー　ボージソワカ

●次　淨三業

唵(引)娑嚩(二合)婆嚩瓠(詩聿反)馱(引一)薩嚩達磨(入引二)娑
嚩(二合)婆(去)嚩戍(引准上)度哈

オンソハハンバシユダサラバタラマソハハンバシユドカン

उं श्र ष व श्र ष म ष ड श्र ष व श्र ष न

刻々にあるがままの自身を観想（凝視）する。

すべての生きとし生けるものの本質は清浄である。しかし、
煩惱によって、真理を見失っている。

自己凝視という観想を迷失してきたことが、煩惱を生み生死

の苦海に溺れ苦しむことに至っている。

潜在の如来のいのちと現象のあらゆるいのちとが、刻々に加持感応同交（互換重合）し、すべてが如来のいのちなることを観想（自己凝視）する。

伝えにいう。

この真言の不思議な力が観想（凝視）に加わり、清浄内心の澡浴となり浄められる。

●次 五悔 金剛合掌

歸命十方一切佛 最勝妙法菩提衆

以身口意清浄業 愍懃合掌恭敬禮

歸命頂禮大悲毘盧遮那佛

無始輪迴諸有中 身口意業所生罪
如佛菩薩所懺悔 我今陳懺亦如是
歸命頂禮大悲毘慮遮那佛
我今深發歡喜心 隋喜一切福智聚
諸佛菩薩行願中 金剛三業所生福
緣覺聲聞及有情 所集善根盡隋喜
歸命頂禮大悲毘慮遮那佛
一切世燈坐道場 覺眼開敷照三有
我今跏跪先勸請 轉於無上妙法輪
所有如來三界主 臨般無余涅槃者
我皆勸請令久住 不捨悲願救世間
歸命頂禮大悲毘慮遮那佛
懺悔隨喜勸請福 願我不失菩提心

諸仏菩薩妙衆中 常為善友不厭捨
離於八難生無難 宿命住智莊嚴身
遠離愚迷具悲智 悉能滿足波羅蜜
富樂豐饒生勝族 眷屬広多恒熾盛
四無擬弁十自在 六通諸禪悉円満
如金剛幢及普賢 願讚回向亦如是
歸命頂礼大悲毘慮遮那仏

●次 發菩提心真言 金剛合掌

唵冒地質多母怛波娜野弭

オンボウジシツタボダハダヤミ

ॐ व ॐ वि न म म र म

●次 三昧耶戒真言 金剛合掌

唵三昧耶薩怛鑠

オンサンマヤサトバン

うみひひ

●次 發願 一打 金剛合掌

至心發願 真言教主 大日如来

両部界会 諸尊聖衆 護法天等

所設妙供 哀愍攝受 護持弟子

無始以来 三業所犯 一切罪障

皆悉消除 天下法界 平等利益

●次 五大願 金剛合掌

衆生無邊誓願度

福智無邊誓願集

法門無邊誓願覺

如来無邊誓願事

菩提無上誓願證

自他法界平等利益

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー　ゼエルゼ　ヴェアマル

カドーシユ　カドーシユ　カドーシユ

ヨッドヘー　ヴォッドヘー　ツエヴァオット

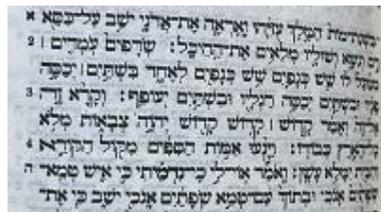
メロー　ホル　ハアレツ　ケヴオドー

ギヤーター　ギヤーター　ハーラーギヤーター

ハラソーギヤーター　ボージソワカ

●次　普供養真言　金剛合掌

唵(引)阿謨(引)伽(去)布惹(自擺反一)麼拏鉢納麼(二合)嚩日(二一



●次 三部被甲護身

佛部三昧耶

唵(引)怛他(引) 譏覩(引一) 納婆(二合) 嚩(引) 耶袞嚩(二合) 賀(引)

オンタタギヤトウドハンバヤソハカ

うん びん びん びん びん びん

頭上の中央から如来の無量の光りが降り注がれていることを
観想(凝視)する。

伝えにいう。

如来が来りて、修行者に不思議な力を加え、守護し、速やかに修行者の働きを清浄とならしめ、罪障は消滅し、福德と知恵

を増やしむる。

●次 蓮華部三昧耶 八葉印

唵(引)跛那謨(二合引一)納婆(二合)嚩(引)耶娑嚩(二合)賀(引
二)

オンハンドボウドハンバヤソハカ

ウハヰヲネハハサカ

頭上の右から観自在菩薩の光りが降り注がれていることを観
想する。

伝えにいう。

観自在菩薩および蓮華部の聖衆が来りて、修行者に不思議な
力を加え、対話の働きを清浄とならしめ、慈悲深くならしめる。

●次 金剛部三昧耶

唵(引)嚩日嚩(二合引一)納婆(二合)嚩(引)耶娑嚩(二合)賀(引
二)

オンバゾロウドハンバヤソハカ

うむんぎんぎん

頭上の左から金剛蔵菩薩の光りが降り注がれていることを観
想する。

伝えにいう。

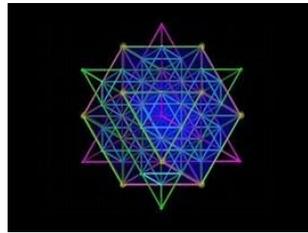
金剛蔵菩薩並びに金剛部の聖衆来って修行者に不思議な力を
加え、心の働きを清浄にすることを得さしめ、修行者の菩提心
を現前せしめ、速やかに不生の仏心を開かしめる。

体であることを観想せしめる。大慈悲の光に包まれ、あらゆる魔等は、慈悲の心に目覚め、障難を及ぼすことはできない。

伝えにいう。

真言を唱え観想（自己凝視）すること、悉く修行者の威光が光り輝く太陽のように慈悲の光りに満たされ、すべての天魔及び諸の障礙をなす迷える魂は、慈悲心を起こし、修行者を障礙することをやめ、悪人からも遮断される。

煩惱や業障が身に染めつく事はなく、現象と潜象における多次元なる世界において、苦るしみが解放され、速やかにこの上ない安らぎに導かれる。



● 次 結地界金剛橛印

次 結地界金剛橛印。先以右中指入左頭中指間。右名指入左名小指間。皆頭外出。以左中指繖右中指背。入右頭中指間。以左名指繖右名指背。入右名小指間。二小指二頭指各頭相拄。二大指下相捻。即成。結此印已。想印如金剛杵形。以二大指向地

觸之。誦真言一遍一印於地。如是至三。即成堅固金剛之座。下方真言

次に地界金剛蕨の印を結びなさい。(その印は)まず右の中指をもって左の人差し指と中指の間に入れ、右の薬指をもって左の薬指と小指との内に入れみな端を外に出しなさい。

左の中指をもって右の中指の背を纏うて右の人差し指と中指の間に入れ、左の薬指をもって右の薬指の背を纏うて右の薬指と小指の間に入れ、両方の小指と人差し指の端を合いささえ両親指を下に(向けて)あい押さえなさい。

即ち完成する。この印を結び終わって観想しなさい。

印は金剛杵の形のようにであると。

両親指をもって地面に向かって触れなさい。真言一遍を唱えて

持)ことによつて、(地)下金剛輪際に至るまで、金剛のように壊れることのない(地)界となる。大力を有する諸魔も(地界)を揺り動かす事はできない。(修行者が)少しだけ功(徳)力を加えても大いなる成就を得る。

地中のあらゆる穢悪のものは、(この印真言の)不思議な力を加えることによつて(∥加持)悉く皆清浄となる。その(結)界は(修行者の)心の大小にしたがつて完成する。

いま、ここに マカバの光明が金剛杵のようにあらわれ、堅固な金剛厥の光りの坐となることを観想する。

伝えにいう。

この真言を唱えることにより、大地に不思議な力を加わる。自身のミクロなる極小金剛輪際に至るまで、金剛のように壊れ

ることのない地界となる。大力の諸魔も地界を揺り動かす事はできない。修行者が微力なれども大いに成就を得る。

地中のあらゆる穢悪のものは、この真言の不思議な力によって清浄となる。その結界は修行者の心の深度に応じる。

●次 結金剛牆印

次 結金剛牆印。准前地界印。開掌揲豎二大指。如牆形即成。想從印流出熾焰。以印右旋遶身三轉。稱前地界。即成金剛堅固之城。牆界真言曰

次に金剛牆の印を結びなさい。(その印は)前の地界の印に準じて、掌を開いて両親指を張り立てて、牆の形のようにしなさい。即ち(印は)完成する。觀想しなさい。

印から盛んな炎を流出すると。印をもって右に巡らして(修行者の)身にまとうこと三匝しなさい。前の地界にかなって即ち金剛堅固の城となる。牆界の真言にいう。

唵(引)薩囉薩囉(一)嚩日囉(二合)鉢囉(二合二)迦囉吽(引)發吒
(半音二)

オンサラサラバザラハラキヤラウンハッタ

うまゝゝまゝまゝまゝまゝまゝ

由結此印誦真言及觀行力故。隨心大小。成金剛光焰方隅牆界。諸魔惡人虎狼師子。及諸毒虫不能輔近

この印を結んで真言を唱えて及び觀念をこらす(功德)力によ

って、（修行者）の心の大小にしたがって金剛の光炎ある方隅の牆界となる。様々な魔や悪人、虎、狼、獅子、及び様々な毒虫はつき近づくことができない。

マカバから盛んな光炎が流出している。マカバの光明が修行者を包み、右旋すること三回。前の地界に沿って金剛堅固の光りの域となることを觀想する。

伝えにいう。

即ち、この功德力によって、修行者の心の深度に応じ、金剛の光炎を張りめぐらす牆界となる。様々な魔や悪人、虎、狼、獅子、及び様々な毒虫はつき近づくことができない。

● 次 結大虚空藏菩薩印

次 結大虚空藏菩薩印。二手合掌。二中指右押左外相叉。縛著手背。二頭指相蹙如寶形。即成。想從印流出無量諸供養具衣服飲食宮殿樓閣等。如瑜伽廣說。即誦大虚空藏菩薩真言

次に大虚空藏菩薩の印を結びなさい。(その印は)両手を合掌して左右の中指は右左を押してあい交えて手の背に広げつけ、左右の人差し指をひそめて宝(珠)の形のようにしなさい。すなわち(印が)完成する。

観想しなさい。印から無量の様々な供養の具、衣服、飲食、宮殿、楼閣等を流出すると。

(その有り様は)経軌に広く説いているが如くである。すなわち、大虚空藏の真言を唱えている。

潜象界（大虚空蔵ダークマター）から現象界に無量の様々な
供養の具を流出されていることを観想する。

この真言の不思議な力が加わり、森羅万象、マカマニ（摩尼
宝珠）となる。

●次 道場観

次想壇中紇哩（二合入引）字。放大光明如紅頗梨色。遍照十方
世界。其中有情遇斯光者。無不皆得罪障消滅

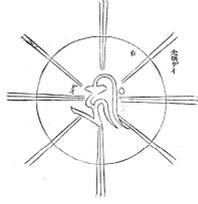
次に観想しなさい。壇の中にキリク字があって、大光明を放
って紅頗梨色をして、あまねく十方世界を照らす。その中の生
きとし生けるものでこの光に遭遇したものは、みな罪障を消滅
しないということはない。

次に如来拳印を結びなさい。左手の四指（人差し指、中指、薬指、小指）をもって握って拳にして、親指を真つすぐ立てなさい。右手を金剛拳にして、左の親指を握りなさい。

於面前觀安樂世界。瑠璃爲地。功德乳海。於其海中觀念頡哩二合字。放大光明。如紅頰梨色。遍照十方世界。其中有情遇斯光者。無不皆得離苦。其字輪變成獨股。首上有微妙開敷紅蓮華。立橫五股上。卽變其華爲無量壽如來。身在寶蓮華滿月輪上。着五智寶冠。住於定印。身相紅頰梨色。從頂上放紅頰梨光。照無量洹沙世界。皆悉紅頰梨色。與諸聖衆前後圍繞。如是人觀已。以三此印。加持。七遍。

壇中有活 成八葉蓮華具寶鬘藥 首上有乾成月輪月輪中有似黃
金色具無量光明 其字輪變成蓮華 蓮華變成聖觀世音菩薩 身

色黄金光明赫奕 被輕縠衣着赤色裙左手当臍執未敷蓮華 右手
 当胸作開封勢 有頭冠瓔珞 首戴無量壽仏及蓮華部聖衆前後圍
 繞



ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマール

カドーシユ カドーシユ カドーシユ

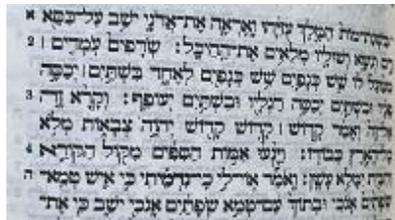
ヨッドヘー ヴォッドヘー ツェヴァオット

メロー ホル ハアレツ ケヴォドー

ギヤーテ ギヤーテ ハーラーギヤーテ

ハラソーギヤーテ ボージソワカ

● 次結如來拳印



次結如來拳印。以左手四指握拳。直豎大指。以右手作金剛拳。握左大指甲。即成。以此拳印印地。誦真言加持七遍。變其世界。如來拳真言曰

(印は)完成する。この(如來)拳印をもって地を印しなさい。

真言を唱えて不思議な力を加え(〓加持)ることを七過すれば、この世界は(極樂世界に)変ずる。如來拳の真言にいう。

唵(引)步(引入)欠(一) オンボツキヤン

〓
步
欠

七處加持 左膝・壇・右膝・心・額・喉・頂

由結此印及誦真言加持威力故。即變此三千大千世界。成極樂刹土。七寶為地。水鳥樹林皆演法音。無量莊嚴如經所說。

即誦伽他曰

以我功德力

如來加持力

及以法界力

願成安樂刹

普供養爾住

この印を結び真言を唱えて不思議な力を加える(〓加持)威神力によって、すなわちこの三千大千世界を変じて極樂国土となる。(そのあり様は)七宝をもって地とし、水(の流れや)鳥(の鳴き声や)樹林(の風の音)はみな(説)法の音をいだしている。計り知れない莊嚴の様は經等に説いている如くである。すなわち、伽陀を唱えている。

我が功德力と、如來の加持力と、及び法界の力とをもって、

願わくば安樂刹を成就せん。

行者由數習此定。現生每於定中。見極樂世界無量壽如來在大菩薩衆會。聞説無量契經。臨命終時心不散亂。三昧現前。刹那迅速則生彼土。蓮花化生證菩薩位

修行者はしばしばこの定を(修)習することによって、現世に常に瞑想の中において極樂世界の無量壽如來が、大菩薩の集會の中におられるのを拝見し、計り知れない經典をお説きになるのを拝聴し、(修行者)は命が終わらんとする時にも心が散じ動ずることなく、三昧が現前し、速やかに早く彼の(極樂淨)土に生まれ、蓮華から化生して菩薩の位を証す。

ビルシャナブツ　ビルシャナブツ　ビルシャナブツ

ヴェカラー　ゼエルゼ　ヴェアマール

カドーシユ　カドーシユ　カドーシユ

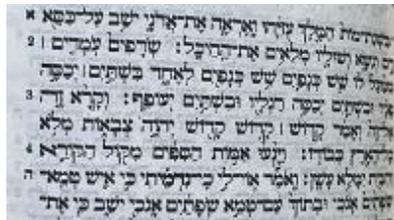
ヨッドヘー　ヴォッドヘー　ツエヴァオット

メロー　ホル　ハアレツ　ケヴオドー

ギヤーテー　ギヤーテー　ハーラーギヤーテー

ハラソーギヤーテー　ボージソワカ

●次　結寶車輅印



次 結寶車輅印。二手仰相叉。右押左。以二頭指側相柱。二大指捻二頭指下第一文。即成。送車輅真言曰

次に宝車幣の印を結びなさい。(その印は)両手を仰げてあい交え右をもつて左を押し、兩人差し指をもつて側めてあいさいなさい。両方の親指は人差し指の下の第一の文を押さえなさい。すなわち(印は)完成する。送車輅の真言にいう。

唵(引)靺嚧靺嚧吽(引)
オントロトロウン

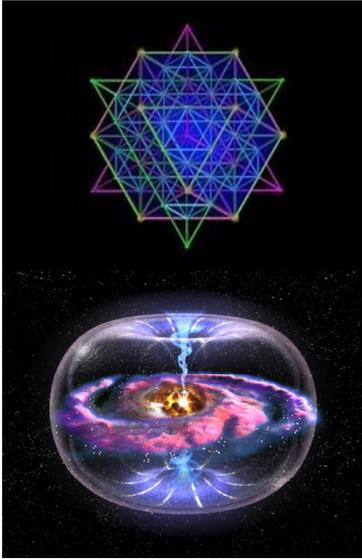
う
い
い
い
い
ん

由結此印。想成七寶莊嚴車輅。往彼極樂世界。請無量壽如來

并諸菩薩眷屬乘此車輅。

この印を結んで観想しなさい。七宝で飾った車格となって、彼の極楽世界に行き、無量寿如来並びに様々な菩薩眷屬、この車輅に乗りたまえとお願い申し上げる。

潜象と現象の只中にある光のマカバ・トーラスを観想する



●次 請車輅

不散此印。以二大指向身。撥二中指頭。便誦車輅真言曰

この印を散ぜず、即ち両方の親指をもって(修行者の)身に向けて両中指の端を発せよ。すなわち、請車輅の真言を唱えて言う。

曩莫(入)悉底哩耶(四合一)地尾(二合)迦南(引二)怛他(引)夔哆
(引)南(引)(三)唵(引)嚩日朗(二合引)儼(妍以反)孃迦囉灑(二
合)耶娑嚩(二合)賀(引)

ノウマクシツチリヤジビキヤナンタタギヤタナンオンバザロウ
ギニヨウキヤラシヤヤソワカ

𑖀𑖄𑖅𑖆𑖇𑖈𑖉𑖊𑖋𑖌𑖍𑖎𑖏𑖐𑖑𑖒𑖓𑖔𑖕𑖖𑖗𑖘𑖙𑖚𑖛𑖜𑖝𑖞𑖟𑖠𑖡𑖢𑖣𑖤𑖥𑖦𑖧𑖨𑖩𑖪𑖫𑖬𑖭𑖮𑖯𑖰𑖱𑖲𑖳𑖴𑖵𑖶𑖷𑖸𑖹𑖺𑖻𑖼𑖽𑖾𑗀𑖿𑗁𑗂𑗃𑗄𑗅𑗆𑗇𑗈𑗉𑗊𑗋𑗌𑗍𑗎𑗏𑗐𑗑𑗒𑗓𑗔𑗕𑗖𑗗𑗘𑗙𑗚𑗛𑗜𑗝𑗞𑗟𑗠𑗡𑗢𑗣𑗤𑗥𑗦𑗧𑗨𑗩𑗪𑗫𑗬𑗭𑗮𑗯𑗰𑗱𑗲𑗳𑗴𑗵𑗶𑗷𑗸𑗹𑗺𑗻𑗼𑗽𑗾𑗿𑘀𑘁𑘂𑘃𑘄𑘅𑘆𑘇𑘈𑘉𑘊𑘋𑘌𑘍𑘎𑘏𑘐𑘑𑘒𑘓𑘔𑘕𑘖𑘗𑘘𑘙𑘚𑘛𑘜𑘝𑘞𑘟𑘠𑘡𑘢𑘣𑘤𑘥𑘦𑘧𑘨𑘩𑘪𑘫𑘬𑘭𑘮𑘯𑘰𑘱𑘲𑘳𑘴𑘵𑘶𑘷𑘸𑘹𑘺𑘻𑘼𑘽𑘾𑘿𑙀𑙁𑙂𑙃𑙄𑙅𑙆𑙇𑙈𑙉𑙊𑙋𑙌𑙍𑙎𑙏𑙐𑙑𑙒𑙓𑙔𑙕𑙖𑙗𑙘𑙙𑙚𑙛𑙜𑙝𑙞𑙟𑙠𑙡𑙢𑙣𑙤𑙥𑙦𑙧𑙨𑙩𑙪𑙫𑙬𑙭𑙮𑙯𑙰𑙱𑙲𑙳𑙴𑙵𑙶𑙷𑙸𑙹𑙺𑙻𑙼𑙽𑙾𑙿𑚀𑚁𑚂𑚃𑚄𑚅𑚆𑚇𑚈𑚉𑚊𑚋𑚌𑚍𑚎𑚏𑚐𑚑𑚒𑚓𑚔𑚕𑚖𑚗𑚘𑚙𑚚𑚛𑚜𑚝𑚞𑚟𑚠𑚡𑚢𑚣𑚤𑚥𑚦𑚧𑚨𑚩𑚪𑚫𑚬𑚭𑚮𑚯𑚰𑚱𑚲𑚳𑚴𑚵𑚷𑚶𑚸𑚹𑚺𑚻𑚼𑚽𑚾𑚿𑛀𑛁𑛂𑛃𑛄𑛅𑛆𑛇𑛈𑛉𑛊𑛋𑛌𑛍𑛎𑛏𑛐𑛑𑛒𑛓𑛔𑛕𑛖𑛗𑛘𑛙𑛚𑛛𑛜𑛝𑛞𑛟𑛠𑛡𑛢𑛣𑛤𑛥𑛦𑛧𑛨𑛩𑛪𑛫𑛬𑛭𑛮𑛯𑛰𑛱𑛲𑛳𑛴𑛵𑛶𑛷𑛸𑛹𑛺𑛻𑛼𑛽𑛾𑛿𑜀𑜁𑜂𑜃𑜄𑜅𑜆𑜇𑜈𑜉𑜊𑜋𑜌𑜍𑜎𑜏𑜐𑜑𑜒𑜓𑜔𑜕𑜖𑜗𑜘𑜙𑜚𑜛𑜜𑜝𑜞𑜟𑜠𑜡𑜢𑜣𑜤𑜥𑜦𑜧𑜨𑜩𑜪𑜫𑜬𑜭𑜮𑜯𑜰𑜱𑜲𑜳𑜴𑜵𑜶𑜷𑜸𑜹𑜺𑜻𑜼𑜽𑜾𑜿𑝀𑝁𑝂𑝃𑝄𑝅𑝆𑝇𑝈𑝉𑝊𑝋𑝌𑝍𑝎𑝏𑝐𑝑𑝒𑝓𑝔𑝕𑝖𑝗𑝘𑝙𑝚𑝛𑝜𑝝𑝞𑝟𑝠𑝡𑝢𑝣𑝤𑝥𑝦𑝧𑝨𑝩𑝪𑝫𑝬𑝭𑝮𑝯𑝰𑝱𑝲𑝳𑝴𑝵𑝶𑝷𑝸𑝹𑝺𑝻𑝼𑝽𑝾𑝿𑞀𑞁𑞂𑞃𑞄𑞅𑞆𑞇𑞈𑞉𑞊𑞋𑞌𑞍𑞎𑞏𑞐𑞑𑞒𑞓𑞔𑞕𑞖𑞗𑞘𑞙𑞚𑞛𑞜𑞝𑞞𑞟𑞠𑞡𑞢𑞣𑞤𑞥𑞦𑞧𑞨𑞩𑞪𑞫𑞬𑞭𑞮𑞯𑞰𑞱𑞲𑞳𑞴𑞵𑞶𑞷𑞸𑞹𑞺𑞻𑞼𑞽𑞾𑞿𑟀𑟁𑟂𑟃𑟄𑟅𑟆𑟇𑟈𑟉𑟊𑟋𑟌𑟍𑟎𑟏𑟐𑟑𑟒𑟓𑟔𑟕𑟖𑟗𑟘𑟙𑟚𑟛𑟜𑟝𑟞𑟟𑟠𑟡𑟢𑟣𑟤𑟥𑟦𑟧𑟨𑟩𑟪𑟫𑟬𑟭𑟮𑟯𑟰𑟱𑟲𑟳𑟴𑟵𑟶𑟷𑟸𑟹𑟺𑟻𑟼𑟽𑟾𑟿𑠀𑠁𑠂𑠃𑠄𑠅𑠆𑠇𑠈𑠉𑠊𑠋𑠌𑠍𑠎𑠏𑠐𑠑𑠒𑠓𑠔𑠕𑠖𑠗𑠘𑠙𑠚𑠛𑠜𑠝𑠞𑠟𑠠𑠡𑠢𑠣𑠤𑠥𑠦𑠧𑠨𑠩𑠪𑠫𑠬𑠭𑠮𑠯𑠰𑠱𑠲𑠳𑠴𑠵𑠶𑠷𑠸𑠺𑠹𑠻𑠼𑠽𑠾𑠿𑡀𑡁𑡂𑡃𑡄𑡅𑡆𑡇𑡈𑡉𑡊𑡋𑡌𑡍𑡎𑡏𑡐𑡑𑡒𑡓𑡔𑡕𑡖𑡗𑡘𑡙𑡚𑡛𑡜𑡝𑡞𑡟𑡠𑡡𑡢𑡣𑡤𑡥𑡦𑡧𑡨𑡩𑡪𑡫𑡬𑡭𑡮𑡯𑡰𑡱𑡲𑡳𑡴𑡵𑡶𑡷𑡸𑡹𑡺𑡻𑡼𑡽𑡾𑡿𑢀𑢁𑢂𑢃𑢄𑢅𑢆𑢇𑢈𑢉𑢊𑢋𑢌𑢍𑢎𑢏𑢐𑢑𑢒𑢓𑢔𑢕𑢖𑢗𑢘𑢙𑢚𑢛𑢜𑢝𑢞𑢟𑢠𑢡𑢢𑢣𑢤𑢥𑢦𑢧𑢨𑢩𑢪𑢫𑢬𑢭𑢮𑢯𑢰𑢱𑢲𑢳𑢴𑢵𑢶𑢷𑢸𑢹𑢺𑢻𑢼𑢽𑢾𑢿𑣀𑣁𑣂𑣃𑣄𑣅𑣆𑣇𑣈𑣉𑣊𑣋𑣌𑣍𑣎𑣏𑣐𑣑𑣒𑣓𑣔𑣕𑣖𑣗𑣘𑣙𑣚𑣛𑣜𑣝𑣞𑣟𑣠𑣡𑣢𑣣𑣤𑣥𑣦𑣧𑣨𑣩𑣪𑣫𑣬𑣭𑣮𑣯𑣰𑣱𑣲𑣳𑣴𑣵𑣶𑣷𑣸𑣹𑣺𑣻𑣼𑣽𑣾𑣿𑤀𑤁𑤂𑤃𑤄𑤅𑤆𑤇𑤈𑤉𑤊𑤋𑤌𑤍𑤎𑤏𑤐𑤑𑤒𑤓𑤔𑤕𑤖𑤗𑤘𑤙𑤚𑤛𑤜𑤝𑤞𑤟𑤠𑤡𑤢𑤣𑤤𑤥𑤦𑤧𑤨𑤩𑤪𑤫𑤬𑤭𑤮𑤯𑤰𑤱𑤲𑤳𑤴𑤵𑤶𑤷𑤸𑤹𑤺𑤻𑤼𑤽𑤾𑤿𑥀𑥁𑥂𑥃𑥄𑥅𑥆𑥇𑥈𑥉𑥊𑥋𑥌𑥍𑥎𑥏𑥐𑥑𑥒𑥓𑥔𑥕𑥖𑥗𑥘𑥙𑥚𑥛𑥜𑥝𑥞𑥟𑥠𑥡𑥢𑥣𑥤𑥥𑥦𑥧𑥨𑥩𑥪𑥫𑥬𑥭𑥮𑥯𑥰𑥱𑥲𑥳𑥴𑥵𑥶𑥷𑥸𑥹𑥺𑥻𑥼𑥽𑥾𑥿𑦀𑦁𑦂𑦃𑦄𑦅𑦆𑦇𑦈𑦉𑦊𑦋𑦌𑦍𑦎𑦏𑦐𑦑𑦒𑦓𑦔𑦕𑦖𑦗𑦘𑦙𑦚𑦛𑦜𑦝𑦞𑦟𑦠𑦡𑦢𑦣𑦤𑦥𑦦𑦧𑦨𑦩𑦪𑦫𑦬𑦭𑦮𑦯𑦰𑦱𑦲𑦳𑦴𑦵𑦶𑦷𑦸𑦹𑦺𑦻𑦼𑦽𑦾𑦿𑧀𑧁𑧂𑧃𑧄𑧅𑧆𑧇𑧈𑧉𑧊𑧋𑧌𑧍𑧎𑧏𑧐𑧑𑧒𑧓𑧔𑧕𑧖𑧗𑧘𑧙𑧚𑧛𑧜𑧝𑧞𑧟𑧠𑧡𑧢𑧣𑧤𑧥𑧦𑧧𑧨𑧩𑧪𑧫𑧬𑧭𑧮𑧯𑧰𑧱𑧲𑧳𑧴𑧵𑧶𑧷𑧸𑧹𑧺𑧻𑧼𑧽𑧾𑧿𑨀𑨁𑨂𑨃𑨄𑨅𑨆𑨇𑨈𑨉𑨊𑨋𑨌𑨍𑨎𑨏𑨐𑨑𑨒𑨓𑨔𑨕𑨖𑨗𑨘𑨙𑨚𑨛𑨜𑨝𑨞𑨟𑨠𑨡𑨢𑨣𑨤𑨥𑨦𑨧𑨨𑨩𑨪𑨫𑨬𑨭𑨮𑨯𑨰𑨱𑨲𑨳𑨴𑨵𑨶𑨷𑨸𑨹𑨺𑨻𑨼𑨽𑨾𑨿𑩀𑩁𑩂𑩃𑩄𑩅𑩆𑩇𑩈𑩉𑩊𑩋𑩌𑩍𑩎𑩏𑩐𑩑𑩒𑩓𑩔𑩕𑩖𑩗𑩘𑩙𑩚𑩛𑩜𑩝𑩞𑩟𑩠𑩡𑩢𑩣𑩤𑩥𑩦𑩧𑩨𑩩𑩪𑩫𑩬𑩭𑩮𑩯𑩰𑩱𑩲𑩳𑩴𑩵𑩶𑩷𑩸𑩹𑩺𑩻𑩼𑩽𑩾𑩿𑪀𑪁𑪂𑪃𑪄𑪅𑪆𑪇𑪈𑪉𑪊𑪋𑪌𑪍𑪎𑪏𑪐𑪑𑪒𑪓𑪔𑪕𑪖𑪗𑪘𑪙𑪚𑪛𑪜𑪝𑪞𑪟𑪠𑪡𑪢𑪣𑪤𑪥𑪦𑪧𑪨𑪩𑪪𑪫𑪬𑪭𑪮𑪯𑪰𑪱𑪲𑪳𑪴𑪵𑪶𑪷𑪸𑪹𑪺𑪻𑪼𑪽𑪾𑪿𑫀𑫁𑫂𑫃𑫄𑫅𑫆𑫇𑫈𑫉𑫊𑫋𑫌𑫍𑫎𑫏𑫐𑫑𑫒𑫓𑫔𑫕𑫖𑫗𑫘𑫙𑫚𑫛𑫜𑫝𑫞𑫟𑫠𑫡𑫢𑫣𑫤𑫥𑫦𑫧𑫨𑫩𑫪𑫫𑫬𑫭𑫮𑫯𑫰𑫱𑫲𑫳𑫴𑫵𑫶𑫷𑫸𑫹𑫺𑫻𑫼𑫽𑫾𑫿𑬀𑬁𑬂𑬃𑬄𑬅𑬆𑬇𑬈𑬉𑬊𑬋𑬌𑬍𑬎𑬏𑬐𑬑𑬒𑬓𑬔𑬕𑬖𑬗𑬘𑬙𑬚𑬛𑬜𑬝𑬞𑬟𑬠𑬡𑬢𑬣𑬤𑬥𑬦𑬧𑬨𑬩𑬪𑬫𑬬𑬭𑬮𑬯𑬰𑬱𑬲𑬳𑬴𑬵𑬶𑬷𑬸𑬹𑬺𑬻𑬼𑬽𑬾𑬿𑭀𑭁𑭂𑭃𑭄𑭅𑭆𑭇𑭈𑭉𑭊𑭋𑭌𑭍𑭎𑭏𑭐𑭑𑭒𑭓𑭔𑭕𑭖𑭗𑭘𑭙𑭚𑭛𑭜𑭝𑭞𑭟𑭠𑭡𑭢𑭣𑭤𑭥𑭦𑭧𑭨𑭩𑭪𑭫𑭬𑭭𑭮𑭯𑭰𑭱𑭲𑭳𑭴𑭵𑭶𑭷𑭸𑭹𑭺𑭻𑭼𑭽𑭾𑭿𑮀𑮁𑮂𑮃𑮄𑮅𑮆𑮇𑮈𑮉𑮊𑮋𑮌𑮍𑮎𑮏𑮐𑮑𑮒𑮓𑮔𑮕𑮖𑮗𑮘𑮙𑮚𑮛𑮜𑮝𑮞𑮟𑮠𑮡𑮢𑮣𑮤𑮥𑮦𑮧𑮨𑮩𑮪𑮫𑮬𑮭𑮮𑮯𑮰𑮱𑮲𑮳𑮴𑮵𑮶𑮷𑮸𑮹𑮺𑮻𑮼𑮽𑮾𑮿𑯀𑯁𑯂𑯃𑯄𑯅𑯆𑯇𑯈𑯉𑯊𑯋𑯌𑯍𑯎𑯏𑯐𑯑𑯒𑯓𑯔𑯕𑯖𑯗𑯘𑯙𑯚𑯛𑯜𑯝𑯞𑯟𑯠𑯡𑯢𑯣𑯤𑯥𑯦𑯧𑯨𑯩𑯪𑯫𑯬𑯭𑯮𑯯𑯰𑯱𑯲𑯳𑯴𑯵𑯶𑯷𑯸𑯹𑯺𑯻𑯼𑯽𑯾𑯿𑰀𑰁𑰂𑰃𑰄𑰅𑰆𑰇𑰈𑰉𑰊𑰋𑰌𑰍𑰎𑰏𑰐𑰑𑰒𑰓𑰔𑰕𑰖𑰗𑰘𑰙𑰚𑰛𑰜𑰝𑰞𑰟𑰠𑰡𑰢𑰣𑰤𑰥𑰦𑰧𑰨𑰩𑰪𑰫𑰬𑰭𑰮𑰯𑰰𑰱𑰲𑰳𑰴𑰵𑰶𑰷𑰸𑰹𑰺𑰻𑰼𑰽𑰾𑰿𑱀𑱁𑱂𑱃𑱄𑱅𑱆𑱇𑱈𑱉𑱊𑱋𑱌𑱍𑱎𑱏𑱐𑱑𑱒𑱓𑱔𑱕𑱖𑱗𑱘𑱙𑱚𑱛𑱜𑱝𑱞𑱟𑱠𑱡𑱢𑱣𑱤𑱥𑱦𑱧𑱨𑱩𑱪𑱫𑱬𑱭𑱮𑱯𑱰𑱱𑱲𑱳𑱴𑱵𑱶𑱷𑱸𑱹𑱺𑱻𑱼𑱽𑱾𑱿𑲀𑲁𑲂𑲃𑲄𑲅𑲆𑲇𑲈𑲉𑲊𑲋𑲌𑲍𑲎𑲏𑲐𑲑𑲒𑲓𑲔𑲕𑲖𑲗𑲘𑲙𑲚𑲛𑲜𑲝𑲞𑲟𑲠𑲡𑲢𑲣𑲤𑲥𑲦𑲧𑲨𑲩𑲪𑲫𑲬𑲭𑲮𑲯𑲰𑲱𑲲𑲳𑲴𑲵𑲶𑲷𑲸𑲹𑲺𑲻𑲼𑲽𑲾𑲿𑳀𑳁𑳂𑳃𑳄𑳅𑳆𑳇𑳈𑳉𑳊𑳋𑳌𑳍𑳎𑳏𑳐𑳑𑳒𑳓𑳔𑳕𑳖𑳗𑳘𑳙𑳚𑳛𑳜𑳝𑳞𑳟𑳠𑳡𑳢𑳣𑳤𑳥𑳦𑳧𑳨𑳩𑳪𑳫𑳬𑳭𑳮𑳯𑳰𑳱𑳲𑳳𑳴𑳵𑳶𑳷𑳸𑳹𑳺𑳻𑳼𑳽𑳾𑳿𑴀𑴁𑴂𑴃𑴄𑴅𑴆𑴇𑴈𑴉𑴊𑴋𑴌𑴍𑴎𑴏𑴐𑴑𑴒𑴓𑴔𑴕𑴖𑴗𑴘𑴙𑴚𑴛𑴜𑴝𑴞𑴟𑴠𑴡𑴢𑴣𑴤𑴥𑴦𑴧𑴨𑴩𑴪𑴫𑴬𑴭𑴮𑴯𑴰𑴱𑴲𑴳𑴴𑴵𑴶𑴷𑴸𑴹𑴺𑴻𑴼𑴽𑴾𑴿𑵀𑵁𑵂𑵃𑵄𑵅𑵆𑵇𑵈𑵉𑵊𑵋𑵌𑵍𑵎𑵏𑵐𑵑𑵒𑵓𑵔𑵕𑵖𑵗𑵘𑵙𑵚𑵛𑵜𑵝𑵞𑵟𑵠𑵡𑵢𑵣𑵤𑵥𑵦𑵧𑵨𑵩𑵪𑵫𑵬𑵭𑵮𑵯𑵰𑵱𑵲𑵳𑵴𑵵𑵶𑵷𑵸𑵹𑵺𑵻𑵼𑵽𑵾𑵿𑶀𑶁𑶂𑶃𑶄𑶅𑶆𑶇𑶈𑶉𑶊𑶋𑶌𑶍𑶎𑶏𑶐𑶑𑶒𑶓𑶔𑶕𑶖𑶗𑶘𑶙𑶚𑶛𑶜𑶝𑶞𑶟𑶠𑶡𑶢𑶣𑶤𑶥𑶦𑶧𑶨𑶩𑶪𑶫𑶬𑶭𑶮𑶯𑶰𑶱𑶲𑶳𑶴𑶵𑶶𑶷𑶸𑶹𑶺𑶻𑶼𑶽𑶾𑶿𑷀𑷁𑷂𑷃𑷄𑷅𑷆𑷇𑷈𑷉𑷊𑷋𑷌𑷍𑷎𑷏𑷐𑷑𑷒𑷓𑷔𑷕𑷖𑷗𑷘𑷙𑷚𑷛𑷜𑷝𑷞𑷟𑷠𑷡𑷢𑷣𑷤𑷥𑷦𑷧𑷨𑷩𑷪𑷫𑷬𑷭𑷮𑷯𑷰𑷱𑷲𑷳𑷴𑷵𑷶𑷷𑷸𑷹𑷺𑷻𑷼𑷽𑷾𑷿𑸀𑸁𑸂𑸃𑸄𑸅𑸆𑸇𑸈𑸉𑸊𑸋𑸌𑸍𑸎𑸏𑸐𑸑𑸒𑸓𑸔𑸕𑸖𑸗𑸘𑸙𑸚𑸛𑸜𑸝𑸞𑸟𑸠𑸡𑸢𑸣𑸤𑸥𑸦𑸧𑸨𑸩𑸪𑸫𑸬𑸭𑸮𑸯𑸰𑸱𑸲𑸳𑸴𑸵𑸶𑸷𑸸𑸹𑸺𑸻𑸼𑸽𑸾𑸿𑹀𑹁𑹂𑹃𑹄𑹅𑹆𑹇𑹈𑹉𑹊𑹋𑹌𑹍𑹎𑹏𑹐𑹑𑹒𑹓𑹔𑹕𑹖𑹗𑹘𑹙𑹚𑹛𑹜𑹝𑹞𑹟𑹠𑹡𑹢𑹣𑹤𑹥𑹦𑹧𑹨𑹩𑹪𑹫𑹬𑹭𑹮𑹯𑹰𑹱𑹲𑹳𑹴𑹵𑹶𑹷𑹸𑹹𑹺𑹻𑹼𑹽𑹾𑹿𑺀𑺁𑺂𑺃𑺄𑺅𑺆𑺇𑺈𑺉𑺊𑺋𑺌𑺍𑺎𑺏𑺐𑺑𑺒𑺓𑺔𑺕𑺖𑺗𑺘𑺙𑺚𑺛𑺜𑺝𑺞𑺟𑺠𑺡𑺢𑺣𑺤𑺥𑺦𑺧𑺨𑺩𑺪𑺫𑺬𑺭𑺮𑺯𑺰𑺱𑺲𑺳𑺴𑺵𑺶𑺷𑺸𑺹𑺺𑺻𑺼𑺽𑺾𑺿𑻀𑻁𑻂𑻃𑻄𑻅𑻆𑻇𑻈𑻉𑻊𑻋𑻌𑻍𑻎𑻏𑻐𑻑𑻒𑻓𑻔𑻕𑻖𑻗𑻘𑻙𑻚𑻛𑻜𑻝𑻞𑻟𑻠𑻡𑻢𑻣𑻤𑻥𑻦𑻧𑻨𑻩𑻪𑻫𑻬𑻭𑻮𑻯𑻰𑻱𑻲𑻳𑻴𑻵𑻶𑻷𑻸𑻹𑻺𑻻𑻼𑻽𑻾𑻿𑼀𑼁𑼂𑼃𑼄𑼅𑼆𑼇𑼈𑼉𑼊𑼋𑼌𑼍𑼎𑼏𑼐𑼑𑼒𑼓𑼔𑼕𑼖𑼗𑼘𑼙𑼚𑼛𑼜𑼝𑼞𑼟𑼠𑼡𑼢𑼣𑼤𑼥𑼦𑼧𑼨𑼩𑼪𑼫𑼬𑼭𑼮𑼯𑼰𑼱𑼲𑼳𑼴𑼵𑼶𑼷𑼸𑼹𑼺𑼻𑼼𑼽𑼾𑼿𑽀𑽁𑽂𑽃𑽄𑽅𑽆𑽇𑽈𑽉𑽊𑽋𑽌𑽍𑽎𑽏𑽐𑽑𑽒𑽓𑽔𑽕𑽖𑽗𑽘𑽙𑽚𑽛𑽜𑽝𑽞𑽟𑽠𑽡𑽢𑽣𑽤𑽥𑽦𑽧𑽨𑽩𑽪𑽫𑽬𑽭𑽮𑽯𑽰𑽱𑽲𑽳𑽴𑽵𑽶𑽷𑽸𑽹𑽺𑽻𑽼𑽽𑽾𑽿𑾀𑾁𑾂𑾃𑾄𑾅𑾆𑾇𑾈𑾉𑾊𑾋𑾌𑾍𑾎𑾏𑾐𑾑𑾒𑾓𑾔𑾕𑾖𑾗𑾘𑾙𑾚𑾛𑾜𑾝𑾞𑾟𑾠𑾡𑾢𑾣𑾤𑾥𑾦𑾧𑾨𑾩𑾪𑾫𑾬𑾭𑾮𑾯𑾰𑾱𑾲𑾳𑾴𑾵𑾶𑾷𑾸𑾹𑾺𑾻𑾼𑾽𑾾𑾿𑿀𑿁𑿂𑿃𑿄𑿅𑿆𑿇𑿈𑿉𑿊𑿋𑿌𑿍𑿎𑿏𑿐𑿑𑿒𑿓𑿔𑿕𑿖𑿗𑿘𑿙𑿚𑿛𑿜𑿝𑿞𑿟𑿠𑿡𑿢𑿣𑿤𑿥𑿦𑿧𑿨𑿩𑿪𑿫𑿬𑿭𑿮𑿯𑿰𑿱𑿲𑿳𑿴𑿵𑿶𑿷𑿸𑿹𑿺𑿻𑿼𑿽𑿾𑿿

則想車輅來至道場住虛空中

すなわち觀想せよ。車輅が道場に來たりて虛空の中にとま
つて
いる。

●次 結迎請聖衆印

次 結迎請聖衆印。二手右押左内相叉。作拳。令掌相著。左
大指屈入掌。右大指曲如鉤。向身招之。即誦迎請真言曰

つぎに聖衆を（道場に）迎え入れる印を結びなさい。両手を右
をもつて左を押し内にあい交えて（内縛）拳にし、掌はあいつ
けて、左の人差し指は屈めて掌に入れ、右の親指を曲げて鉤の

ようにして身に向けて招きなさい。すなわち、迎請の真言を唱えていう。

唵(引)阿(去)嚧(引)力迦(半音)噫醯呬娑嚩(二合)賀(引)

オンアロリキヤソワカ エイケイキソワカ

うん じや へい じや けい けい けい けい けい けい

由結此印誦真言奉請故。無量壽如來不捨悲願。赴此三摩地所成淨土道場。并無量俱胝大菩薩衆。受修行者供養速令得上上成就

この印を結び真言を唱えて(本尊を道場に)請じたてまつるので、無量壽如來は悲願を捨てず、この修行者の三摩地で作られ

た浄土道場に降りてこられ、計り知れない多くの大菩薩達は修行者の供養を受けて、（修行者に）速やかに上上成就を与えられる。

●次 結馬頭觀自在菩薩印

次 結馬頭觀自在菩薩印。作辟除結界二手合掌。二頭指二無名指屈入掌。各自相背。並二大指微屈。勿著頭指。即成。誦馬頭明王真言曰

次に馬頭觀自在菩薩の印を結んで辟除結界をしなさい。

（その印は）両手を合掌して、両方の人差し指と薬指とを屈めて掌の内に入れて各々あい背け、両方の親指を並べてわずかに人差し指につけない。すなわち（印は）完成する。

馬頭明王の真言を唱えていう。

唵(引)阿蜜栗(二合)妬納婆(二合)嚩吽(引)發吒娑嚩(二合)賀

(引)

オンアミリトウドハンバウンハッタ

うんれんふんふんふんふん

誦三遍。即以印左轉三匝。

辟除一切諸魔皆自退散。以印右旋三匝。即成堅固大界

(真言を)唱えること三遍、即ち印をもって左に転ずること三面すればすべての様々な魔を追い出し(魔は)自ら退散する。

即ち印をもって右に巡らすこと三匝すれば堅固な大界となる。

●次 結金剛網印

次 結金剛網印。准前地界印。以二大指。捻二頭指下第一文。即成。誦真言三遍。隨誦以印於頂上右旋便散。網界真言曰

次に金剛網の印を結びなさい。前の地界の印に準じて左右の親指をもって兩人差し指の下の第一の文を押しなさい。

即ち(印が)完成する。真言を三遍唱えて、唱えるにしたがつて印をもって(修行者)の頂上にて右に回転させて即ち散じなさい。網界の真言にいう。

唵(引)尾娑普(二合)囉捺囉(二合)乞灑(二合)嚩日囉(二合)半惹囉吽(引)發吒(半音)

頭上においてマカバの光りが右旋すること三回。

伝えにいう。

この真言の不思議な力によって、即ち上方を覆うに、金剛のように堅い網でもってする。他化自在天のような魔神も障難することができない。修行者の身心は安楽であって、三摩地を成就することがたやすいと。

●次 結金剛火院界印

次 結金剛火院界印。以左手掌掩右手背。令相著揲豎二大指即成。想從印流出無量光焰。火以印右旋三匝。則於金剛牆外。便有火焰圍遶。即成堅固清淨火院大界。火院真言曰

次に金剛火院界の印を結びなさい。(その印は)左手の掌をも

って右手の背を覆ってあい着け、両方の親指を張り立てると完成する。観想せよ、印から計り知れない光炎を流出すると。印をもって右に巡らすこと三匝すれば金剛牆の外側において、火炎があつて取り囲み、堅固で清浄な火界となる。

火院の真言にいう。

唵(引)阿三(去)莽儼(妍以反)儻吽(引)發妊(半音)

オンアサンマギニウンハッタ

おんあさんまぎにうんはた

マカバから計り知れない光炎が流出していることを観想する。マカバの光りが右旋すること三回。金剛牆の外側において、光りの火炎が取り囲み、堅固で清浄なマカバの光明火界となる。

●次 結獻闕伽香水印

次 結獻闕伽香水印。以二手捧闕伽器。當額奉獻。

次に開伽香水を（本尊に）献上申し上げよ。両手をもって闕伽器を捧げて、額にあてて献上申し上げよ。

誦真言 唵麼折路娜誑吽 三遍。

オンバゾロダギヤウン

想浴聖衆雙足。

伽陀曰

以本清浄水 洗浴無垢身

不捨本誓故 證誠我承事

闕伽真言曰

して、その身口意の働きをもって清浄とならしめ、すべての煩惱や罪の垢を洗いそそぐ。地前（＝勝解行地）から十地、如来地に至るまでこのように地波羅蜜を証するとき、すべての如来が甘露法水の灌頂を（修行者に）授与されることを得る。

●次 結花座印

次 結花座印。准前蓮花部三昧耶印。稍屈指令圓滿即是。結此印已。想從印流出無量金剛蓮華。遍此極樂世界中。無量壽如来及諸大菩薩一切聖衆。各皆得此金剛蓮花為座。蓮花座真言曰
次に蓮華座の印を結びなさい。前の蓮華部三昧耶の印に準じて、やや指を屈めて円満にするのが即ちこれである。

この印を結び終わって観想せよ。

印より計り知れない金剛蓮華を流出し、遍くこの極楽世界の
中の無量寿如来および様々な大菩薩すべての聖衆は、おのおの
この金剛蓮華を得て座とされると。蓮華座の真言に言う。

唵(引)迦麼羅娑嚩(二合)賀(引) 八葉印

オンキャマラソワカ

うんがみよが

由結蓮花座印誦真言加持。行者獲得十地満足當得金剛之座。
三業堅固猶若金剛。

蓮華座の印を結び真言を唱えることによって、修行者は十地
(の菩薩の位を)を満足することを得て、まさに金剛座をえる。

身口意の三つの働き(三業)が堅固であること金剛のようになる。

●次 四攝

如降三世印鈎屈右頭指招 索二頭指如環 鑊開腕相鈎 鈴合腕
振

惹吽鑊斛

ジャクウンバンコク

𑖀𑖄𑖅𑖆𑖇𑖈𑖉

●次 振鈴

先左手金剛拳安腰 次以右手取五股並鈴 次於胸前鈴移左手
當腰右手五股載右掌上唱ウン字三度抽擲之 次慈救咒逆三順三
虛空三五處加持 次第各真言一返 加持之了杵右乳程不豎不橫
當之 次入振鈴左耳五度心三度額二度振之明各一返也 次以五
股為五處加持慈救咒一返 次以右手鈴杵胸前合持返置本處 始
取杵時可誦オンバザラハニウン也

唵嚩曰羅健吒都使也一斛

オンバザラケンドトシャーコク

オンバザラケンドトシャーコク

●次 獻壇供

先塗香 次華 次燒香 次飲食 次燈明 次第供之 行者
右方也 片手所作時他片手必為金剛拳安腰為常 以右手取塗香
器薰燒香三度 次作左手持花印其上置器 次作右手三股 印以
軍荼利小咒為加持三度 次作右手持花印 次以兩手誦普供養真
言 奉獻之 餘二供同之

●次 飲食・燈明

此二供不能取手故唯觀念 所作及真言如前三供行之啣

●次 本尊讚 即誦無量壽如來讚歎三遍。

次に心を澄まして意を定め觀想すること(一縁)に專念して、

無量寿如来が明らかに はつきりと し、目前にて 対する ようで、
様々な 相好を 具えて (いるの を 観じ)、並びに 計り 知れない 眷属
と 彼の (極楽) 国土を 観想せよ。

念念に (浄土を) 願いもとめると、この世において 深い 瞑想状
態 (≡ 三昧) が 完成する ことを 得る。謹んで 誠をもつて (≡ 慶誠)
一心に 彼の (極楽) 国に (往) 生せん ことを 願つて、心に 他のもの
を 思いうかべない。念々に 相続しなさい。すなわち、無量寿如
来の 賛嘆を 唱える こと 三遍せよ。

讚曰

曩謨 (引) 弭多婆 (去引) 野 (一) 曩謨 (引) 弭多庾曬 (引二) 曩謨 (引)
曩麼 (引) 進底野 (二合) 麁拏迦囉答麼 (二合) 寧 (引三) 曩謨 (引) 弭
多婆野爾曩野帝母寧 (引) 素佉 (引去) 嚩底姪 (二合) 夜 (引) 爾多嚩

弩(鼻聲)劍婆野(引)素佉縛底孕(二合引)迦曩迦尾啣怛囉(二合)
迦(引)曩喃(引六)麼弩囉唎(引)素蘖多素帶(引)囉稜(去)訖哩(二
合)耽(引七)多嚩室囉(二合)夜(引)答鉢囉(二合)體多麁拏寫地麼
(上)多(都各反八)鉢囉(二合)夜(引)弭擔(引)麼護麁拏(上)囉怛
曩(二合)散左琰(引九)

ノウボミタバアヤ ノウボミタユセイ ノウボシンチャ グダ
キヤラ トウマネイ ノボミタバヤ ジノウヤテイ ボネイソ
キヤ バチンヤ ミタバドケンバヤ ソキヤ バチヨウキヤノ
ウキヤ ビシツタラキヤノウナン マドラマンソギヤタ ソチ
イラ リヨウギヤリタン タバシラヤ トウハラチタ グダシ
ヤチマタク ハラヤミタン マコグダ アラタンノウサンジャ
エン

修行者は毎日三回（三時）この讚を唱えて、仏の功徳を賛嘆し無量寿如来を驚かし覚醒申し上げる（三驚覚）と、（無量寿如来は）悲願を捨てたまわずして計り知れない光明をもって修行者を照らし触れられる。

（修行者の）業障重罪は皆ことごとく消滅し、身心安楽で清らかにして意を悦ばしめる。

長い間座っても疲労を生じない。心は清浄になることを得て早く三昧を證す。

●次 普供養

結廣大不空摩尼供養印。二手金剛合掌。二頭指蹙如寶形。並豎二大指即成。誦廣大不空摩尼供養陀羅尼曰

阿彌陀佛

此廣大不空摩尼供養陀羅尼。纔誦三遍。即成於無量壽如來集會及微塵刹中。雨無量廣大供養。所謂種種塗香雲海。種種華鬘雲海。種種燒香雲海。種種天妙飲食雲海。種種天妙衣服雲海。種種摩尼燈燭光明雲海。種種幢幡寶帳寶蓋雲海。種種天妙音樂雲海。普於諸佛菩薩衆會。成真實廣大供養。皆由結印誦此真言供養故。獲得無量福聚。猶如虛空無有邊際。世世常生一切如來大集會中。蓮花化生得五神通。分身百億。能於雜染世界。拔濟受苦衆生。皆安隱利益。即於現世受無量果報。當來得生淨土。

この廣大不空摩尼供養の陀羅尼はわずかに三唱えると則ち、無量壽如來の集会及び無辺の（仏）国土の中において計り知れない広大な供養を降らすことになる。

いわゆる種々の塗香雲海、種々の華鬘雲海、種々の焼香雲海、種々の天妙飲食雲海、種々天妙衣服雲海、種々の摩尼光明灯燭雲海、種々の幢播宝蓋雲海、種々の天妙音楽雲海、である。あまねく様々な仏菩薩の集会において真実広大の供養となる。

印を結びこの陀羅尼を唱えて供養することによって、無量の福寿を獲得することは、ちょうど虚空のはてがないようなものである。

生まれるたびに常に一切如来の大集会の中に生じて蓮華から化生して五つの神通をえ、身を百億に分けてよく汚れたこの世において苦しみを受けている生きとし生けるものを救ってみな安楽利益を得させる。

即ち、現世では計り知れない果報を受け、未来の世には浄土にうまれることができる。

●次 應澄心定意專注一緣

次應澄心定意專注一緣。觀無量壽如來。了了分明如對目前。具諸相好。并無量眷屬及彼刹土。念念忻慕。現前獲得三昧成就。虔誠一心願生彼國。心不異緣念念相續。

次に心を澄まして意を定め觀想すること(≡一緣)に專念して、無量壽如來が明らかにはつきりとし、目前にて對するようで、様々な相好を具えて(いるのを觀じ)、並びに計り知れない眷屬と彼の(極樂)国土を觀想せよ。

念念に(浄土を)願いもとめると、この世において深い瞑想状態(≡三昧)が完成することを得る。謹んで誠をもって(≡慶誠)一心に彼の(極樂)国に(往)生せんことを願って、心に他のもの

を思いうかべない。念々に相續しなさい。

一遍上人、ある時の仰せに言われたことには、『阿弥陀経』の「一心不乱」という文句は衆生の自力による一心不乱ではなく、名号自体にそなわった一心不乱なのである。もし、名号以外に心を求めたなら、それは念仏する人自身の心となるから、名号の一心と念仏者の一心とで二心雑乱とせねばなるまい。とても、一心とは言えない。だから、『称讚浄土経』には、「(慈悲をもつて加へ祐けて、心をして乱れざらしむ) 阿弥陀仏が慈悲をもつて、お力を添えて心が乱れないようになさる」と説いている。だから、一心とは衆生の側でおこす我執の妄念の一心ではない。南無阿弥陀仏。

また言われたことには、衆生の往生を決める不変の力は名号

にある。衆生の身心にはそのような力はなく不確かなものである。だから、衆生の身は常に移り変わる形に過ぎず、一念一念、刻々に生滅をくり返す。

衆生の心は真実を見ないし、でたらめな思いのみがあつて、虚偽でしかないものだ。南無阿弥陀仏。

●次 三力偈 金剛合掌

以我功德力 如來加持力
及以法界力 願成安樂刹 普供養爾住

●次 祈願 金剛合掌

至心發願 真言教主 大日如來

兩部界会 諸尊聖衆 護法天等
所設妙供 哀愍攝受 護持弟子
滅罪生善 無邊善願 決定圓滿
決定成就

●次 禮佛 金剛合掌

南無摩訶毘盧遮那

南無阿閼佛

南無寶生佛

南無無量壽佛

南無不空成就佛

南無四波羅蜜菩薩

南無十六大菩薩

南無八供養菩薩

南無四攝智菩薩

南無金剛界一切諸佛菩薩

南無大悲胎藏界一切諸佛菩薩

殊には

南無紅頗梨色阿弥陀佛

南無大聖觀自在菩薩



ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマル

カドーシユ カドーシユ カドーシユ

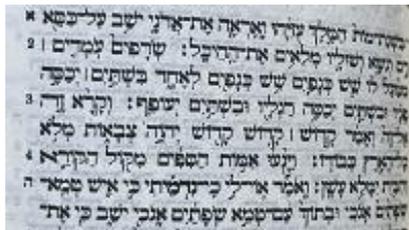
ヨッドヘー ヴオッドヘー ツエヴァオット

メロー ホル ハアレツ ケヴオドー

ギヤーテー ギヤーテー ハーラーギヤーテ

ハラソーギヤーテー ボージソワカ

●次 大三昧耶 (金剛合掌)



1

マカバが右旋しトーラスとなる。

真言にいう

オンシヨウギヤレイマカサンマエンソワカ

うん じ ゅ ぎ れ い ま か さ ん ま え ん そ わ か

●次 本尊供養

(金剛合掌)

うん オン 二十一回

真言にいう

オンアピラウンキャンバザラダドバン

うん び ら う ん き ゃ ん ば ざ ら だ ど ば ん



●次 入定 用定印

即入觀自在菩薩三摩地。

閉目澄心。觀自身中圓滿潔白。猶如淨月仰在心中。於淨月上。
想日哩(二合)字放大光明。其字變成八葉蓮花。於蓮花上有觀自
在菩薩。相好分明。左手持蓮花。右手作開敷葉勢。是菩薩作是

思惟。一切有情身中。具有此覺悟蓮花。清淨法界不染煩惱。於其蓮花八葉上。各有如來入定結跏趺坐。面向觀自在菩薩。項佩圓光。身如金色光明晃耀。即想此八葉蓮花。漸舒漸大量等虛空。即作是思惟。以此覺花照觸如來海會。願成廣大供養。

即ち觀自在菩薩の三摩地にはいり、目を閉じ心を澄まして觀想しなさい。自らの身の中に、丸くて清らかで白い(〓円満潔白)こと、ちょうど淨月を仰げたような(月輪を觀想し)心の中にあると。淨月の上においてキリク字を觀想しなさい。

大光明を放つ。その字變じて八葉の蓮華となる。蓮華の上に觀自在菩薩が住しておられる。その姿ははっきりとしている。左手には蓮華をもち

右手は蓮華を開く仕草をされている。次のように思惟しなさい

い。すべての生きとし生けるものの身の中にこの悟りの蓮華を具えて清浄法界は煩惱に染まることがない。

この蓮華の八葉の上にそれぞれ如来が住されており、みな瞑想の状態にあり結跏趺坐し顔を観自在菩薩の方に向けて頭の後ろに円光がある。

その身は金色で光明が光り輝いている。すなわち、観想しなさい。この八葉蓮華がだんだん伸びだんだん大きくなって、その大きさ(量)は虚空に同じとなる。すなわち、次のように思惟しなさい。

この覚華をもって如来の海会を照らし触れて、願わくば広大な供養をおこなわんと。

即ち、マカバ・トーラスの潜象・現象不二なる大光明を觀じ、

觀自在菩薩の三摩地（觀想）にはいり、目を閉じ心を澄ます。自らの身の中に、丸くて清らかで円い浄月（のごときトーラスを觀想する。浄月輪の上には尊き光りのを觀想する。

大光明が放たれつ、その字変じて八葉蓮華（）となる。蓮華の上に觀自在菩薩が住しておられる。その姿は麗しく明瞭で、左手に蓮華をもち、右手は蓮華を開く仕草をさしている。

それは次のような觀想である。

すべての生きとし生けるものの身の中にこの悟りの蓮華すなわち本不生心を具えて清浄法界にあって、決して煩惱に染まることがない。

この蓮華の八葉全てが如来にして、深い觀想と俱に觀自在菩

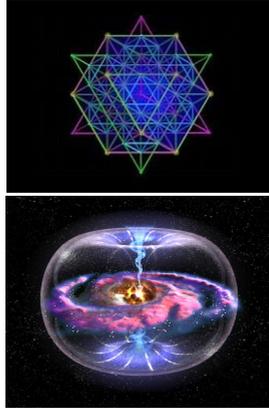
薩の十方全てに円光として包含したまえる。

その身は金色で光り輝いている。只ひたすら観想する。この八葉蓮華がだんだん広がり、その大きさは自身宇宙↓現象界宇宙↓ダークマター宇宙↓ダークエネルギー宇宙↓本不生宇宙すなわち空に同調する。さらに、次のように観想する。

この覚華をもって如来の海会を照らし触れて、願わくば広大な密厳宇宙の創発をおこなわんと。

このように自心のマカバが拡大し、国土・地球・太陽系・銀河系・星雲の大宇宙に及び、かかる無数の大宇宙を更に包含する大宇宙へと拡大し、現象大宇宙界↓ダークマター大宇宙界↓ダークエネルギー大宇宙界↓多次元宇宙↓本不生の無限なる「空」へと環流創出し続けるトーラスのマガタマとして、ダイナミックな大宇宙全体の進化に及ぶ観想を行いなさい。

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय



真言にいう。

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय
ॐ नमो भगवते वासुदेवाय

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー　ゼエルゼ　ヴェアマール

カドーシユ　カドーシユ　カドーシユ

ヨッドヘー　ヴォッドヘー　ツエヴァオット

メロー　ホル　ハアレツ　ケヴォドー

ギヤーテー　ギヤーテー　ハーラーギヤーテー

ハラソーギヤーテー　ボージソワカ

觀了定中誦

唵婆頗羅（二合）跛娜麼（二合）

若心不移此定。則於無邊有情深起悲愍。以此覺花蒙照觸者。於苦煩惱悉皆解脫。等同觀自在菩薩。即想蓮花漸漸收斂量等己身。もし、心この定を移す事なく即ち無辺の生きとし生けるものに哀れみの心を起こす時は、この覺華をもって照らし触れられたものは、苦と煩惱から解き放たれ、觀自在菩薩に等しく同じものとなる。

即ち、觀想せよ。蓮華だんだんと収斂してその大きさ(量)は自分自身と同じであると。

唵婆頗羅(二合) 跋娜麼(二合)
オンソハラハンドマト

更に、心この定(觀想)を移す事なく、無辺の生きとし生け

るものに慈心の湧き上がるを感受せよ。この覚華に照らされ、触れられたものは、苦と煩惱から解き放たれ、観自在菩薩となる。

観想しなさい。本不生空↓ダークエネルギー宇宙↓ダークマター宇宙↓現象界宇宙へと蓮華（マカバ）を収斂させ、自分自身に戻る。更に、自身中に分け入り、細胞↓分子↓原子↓素粒子↓本不生空と自身内大宇宙に至り、無限大宇宙即極微少宇宙が本不生からマカバとなってトールラス構造にあることを。

想已誦

唵僧伽羅（二合） 跛娜麼（二合）

オンソウギヤラハンドマト

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマル

カドーシユ カドーシユ カドーシユ
ヨッドヘー ヴォットドヘー ツェヴァオット



メロー ホル ハアレツ ケヴォドー

ギヤーター ギヤーター ハーラーギヤーター

ハラソーギヤーター ボージソワカ

●次 即結觀自在菩薩印。

加持四處。所謂心額喉頂。其印以二手外相叉。二頭指相柱如蓮花葉。二大指並豎即成。即誦觀自在菩薩真言曰

すなわち、觀自在菩薩の印を結んで四処を触れ(〓加持)なさい。いわゆる心額喉頂である。その印は両手をもって外に交え、兩人差し指をささえて蓮華の葉のようにし、両親指を並べ立てる。觀自在菩薩の真言を唱えて言う。

唵(引)嚩日羅(二合)達麼紇哩(二合入引)
オンバザラダラマキリク

由結此印及誦真言加持故。即自身同觀自在菩薩。等無有異

この印を結んで真言を(唱えて)もって、心額喉頂に不思議な

力を加える（**〓加持**）事によって、すなわち修行者は**觀自在菩薩**に等しく同じとなる。

●次 結無量壽如來根本印。

二手外相叉。作拳豎二中指頭相柱。如蓮華葉形。結成印已。

●次 無量壽如來根本印真言

誦無量壽如來陀羅尼七遍。二手外相叉作拳 豎二中指頭拄如蓮華形誦陀羅尼七返以印於頂上散陀羅尼。無量壽如來根本陀羅尼曰

次に無量壽如來の根本印を結びなさい。両手を外に交えて（外縛）拳になし、両中指を立てて端をあいささえて蓮華の葉のようになさい。

この印を結び終わって無量寿如来陀羅尼七遍を唱えて、印をもつて頂上に散じなさい。

曩謨(引)囉怛曩(二合)怛囉(二合)夜(引)耶(一)曩莫(入)阿(去)哩野(二合)弭婆耶(二)怛他(引)蘖(引)夜(引)囉賀(引)帝(引)三(去)藐三(去)沒馱(引)耶(三)怛儼也(二合)他(引四)唵(引)阿蜜(二合)帝(五)阿蜜(二合)妬(引)納婆(二合)吠(微閉反六)阿蜜(二合)多三(去)婆吠(七)阿(上)蜜(二合)多蘖陞(八)阿(上)蜜(二合)多悉第(九)阿蜜(二合)多帝際(自曳反十)阿蜜(二合)多尾訖磷(二合)帝(十一)阿蜜(二合)多尾訖磷(二合)多譏(引)弭寧(引十二)阿(上)蜜(二合)多譏譏曩吉底迦(十三)阿蜜(二合)多嫩(上)努批娑(二合)(十四)薩縛(引)囉他(二合)娑(引)馱寧(十五)薩縛(引)羯磨訖禮(二合引)捨乞灑(二合)孕迦隸娑縛(二合)賀(引)

不死なる甘露より生ぜる者よ
 不死なる甘露を蔵せる者よ
 不死すなわち無量寿を成就せる者よ
 不死すなわち無量の威光ある者よ
 不死すなわち不滅の神変ある者よ
 不死すなわち不滅の神変を行ずる者よ
 不死すなわち不滅の空より称誉をなす者よ
 一切の希望を成就せしむる者よ
 一切の業と煩惱を尽滅せしむる者よ
 平安・成就あれかし

此無量壽如來陀羅尼。纔誦一遍。即滅身中十惡四重五無間罪。
 一切業障悉皆消滅。若苾芻苾芻尼犯根本罪。誦七遍已。即時還
 得戒品清淨。誦滿一萬遍。獲得不廢忘菩提心三摩地。菩提心顯
 現身中。皎潔圓明猶如淨月。臨命終時。見無量壽如來與無量俱

跏菩薩衆。圍遶來迎行者。安慰身心即生極樂世界上品上生。證菩薩位。

この無量寿如来の陀羅尼はわずかに一遍唱えれば、即ち身の中の十悪と四重と五無間罪を滅し、すべての業障はことごとく皆消滅する。もし比丘比丘尼が根本罪を犯したとしても、(この陀羅尼を)七遍唱え終わると瞬間に戒品清浄となることのできる。

一万遍を唱え満たすと菩提心を廃忘することが無くなり、三摩地菩提心は身の中に現れて、白くてけがれない円光であること、ちょうど浄月のようである。命がおわらんとする時に臨んで無量寿如来が計り知れない菩薩に取り囲まれて来迎され、修行者を安慰されるのを拝見し、極樂世界に生まれて上品上生

し菩薩の位を証する。

●次 加持念珠

即取蓮子念珠。安於手中。二手捧珠合掌。如未敷蓮華形。以千轉念珠真言加持七遍。

即ち蓮華子の念珠を取って手の中に安置し、両手をもって念珠を捧げて合掌し、蓮華のつぼみのようにし、千転念珠の真言をもって不思議な力を加える(〓加持)こと七遍しなさい。

本不生尊 まさに いま 正念加持し 給ふ

先以左手取念珠左頭指以下四指卷珠三匝 次置右掌薰焼香三

度 次左右掌三度移替 次不組置法界定印上真言曰

唵覽娑嚩賀 三返

オンランソワカ

ॐ 𑖀 𑖄 𑖅

淨珠明 入珠合掌中當額唱淨珠明誦明三度間三度頂戴

唵毘盧遮那麼羅娑嚩賀 三返

オンヴェイロシヤナマラソワカ

ॐ 𑖀 𑖄 𑖅 𑖆 𑖇 𑖈 𑖉

即捧珠頂戴心發是願。願一切有情所求世間出世間殊勝大願。

不思議な力を加え（加持）終わってすなわち、（念珠を捧げて）頂戴して心に次のごときの（誓）願をおこしなさい。願わくばすべての生きとし生けるものが求めるところの世間出世間の殊勝の大願を得させようと。

不思議な力を加持終わって、全ての不生の佛心が、あらゆるいのちとなり、次の誓願を以て、密厳国土を創発せしめ給ふ。

速得成就五大願　入珠合掌中當額唱之

衆生無邊誓願度

福智無邊誓願集

法門無邊誓願覺

如来無邊誓願事

菩提無上誓願證

自他法界平等利益

旋転明

先右手取母珠左手作胎拳通其中引上念珠唱

唵(引)縛日羅(二合)獄泗耶(二合)

オンバザラゲキヤ

うむふむふ

次左手握緒留右手作胎拳通其中引下念珠唱

惹(自揆反引)跛三(去)麼曳(引)吽(引)。

ジャハサンマエイウン

むむむむ

即ち極微から極大宇宙にいたるマカバがマガタマの如く順逆

に渦巻くダイナミックなトーラス宇宙を加持し給ふ。

加持已當心

各聚五指如未敷蓮華。左手持珠。以右手大指名指移珠。誦陀羅尼一遍。與娑嚩(二合)賀(引)字聲。齊移一珠。念誦聲不緩不急不高不下。不應出聲。稱呼真言字令一一分明。心觀此三摩地所成淨土。及前所請來無量壽佛。相好圓滿在於壇中。如是觀行了了分明。專注念誦不令間斷。遠離散動。一坐念誦或百或千。若不滿一百八遍。則不充析願遍數。無量壽如來加持故。則身心清淨。乃至開目閉目。常見無量壽如來。即於定中聞說甚深妙法。於一一字一一句。悟無量三摩地門無量陀羅尼門無量解脫門。此身等同觀自在菩薩。速能至於彼國。念誦數畢。捧珠頂戴發是願言。願一切有情。得生極樂世界。見佛聞法。速證無上菩提。

即ち両手をもって胸にあてて各々五指を集めて蓮華のつぼみのようにし左手に念珠をもち、右手の親指と薬指とをもって念珠を移しなさい。

陀羅尼を唱えること一遍してソワカの字の声と等しく一つの珠を移しなさい。

念誦の声は緩やかならず、急ならず、高からず、低からずして、声を出してはいけない。真言の字を称呼して一々はつきりとしなさい。

心にこのこの三摩地によって作られた浄土及び(極楽国から修行者の)前に請じ来る無量寿如来は相好が円満し壇の中に住まれていると観じなさい。

このように観じてはつきりと明らかにして精神を集中して念

誦をして、間を開けず散動を離れなさい。

一座の念誦は或いは百或いは千(遍)しなさい。もし百八遍に満たない時は祈願の遍数にあたらぬ。

無量寿如来が不思議な力を加える(〓加持)ことにより、身心は清浄となり、乃至目を開いても目を閉じても常に無量寿如来を拝見し、瞑想の中で(〓定中)甚だ深い妙法をお説きになるのを聞いて、一々の字一々の句において無量の三摩地門無量の陀羅尼門無量の解脱門を悟る。

この身は観自在菩薩に等しく同じで、速やかにかの(極樂)国に至ることが出来る。念誦の遍数を(満たし)終わると念珠を捧げて頂戴して次の(誓)願をおこしている。願わくばすべての生きとし生けるものが、極樂世界に生まれて(無量寿)仏を拝見し、(説)法を拝聴して、速やかにこの上ない悟りを開かんことをと。

●次 正念誦

次發願願一切有情

次三度引轉次以右手大指無名指取母珠左

手大指無名指取念珠二手相去三寸許當心前觀念無量壽佛

相好圓滿在於壇中亦想本尊心月輪上有秘密眞言我心月輪上亦有秘密眞言本尊念誦時出從本尊御口入從我頂列我心月輪上我念誦時出從我口入從本尊御足下列本尊心月輪上如是相續不絕從一一字放大光明如是觀念誦陀羅尼一遍移一珠念誦數畢入珠蓮華合掌誓願三度戴納筥

●次 無量壽如来根本印真言 本初不生根本陀羅尼

曩謨(引)囉怛曩(二合)怛囉(二合)夜(引)耶(一)曩莫(入)阿(去)
哩野(二合)弭婆耶(二)怛他(引)蘖(引)夜(引)囉賀(引)帝(引)三
(去)藐三(去)沒馱(引)耶(三)怛儻也(二合)他(引四)唵(引)阿蜜
(二合)帝(五)阿蜜(二合)妬(引)納婆(二合)吠(微閉反六)阿蜜(二
合)多三(去)婆吠(七)阿(上)蜜(二合)多蘖陛(八)阿(上)蜜(二合)
多悉第(九)阿蜜(二合)多帝際(自曳反十)阿蜜(二合)多尾訖磷(二
合)帝(十一)阿蜜(二合)多尾訖磷(二合)多誡(引)弭寧(引十二)阿
(上)蜜(二合)多誡誡曩吉底迦(十三)阿蜜(二合)多嫩(上)努批娑
(二合)(十四)薩縛(引)囉他(二合)娑(引)馱寧(十五)薩縛(引)羯
磨訖禮(二合引)捨乞灑(二合)孕迦隸娑縛(二合)賀(引)

にいう。

●次 秘呪

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマル

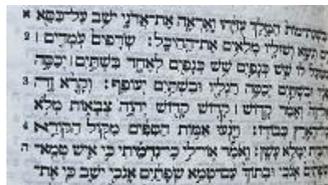
カドーシユ カドーシユ カドーシユ

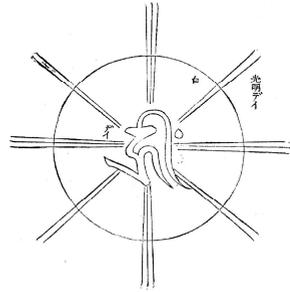
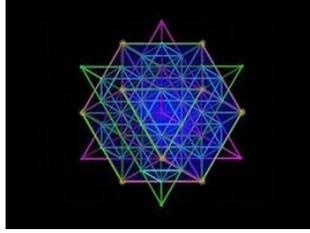
ヨッドヘー ヴォッドヘー ツエヴァオット

メロー ホル ハアレツ ケヴオドー

ギヤーテー ギヤーテー ハーラーギヤーテー

ハラソーギヤーテー ボージソワカ





● 次結定印

次結定印。即觀身中菩提心。皎潔圓明猶如滿月。復作是思惟。菩提心體離一切物離蘊界處及離能取所取。法無我故一切平等。心本不生自性空自性空故。即於圓滿清淨月輪上。想有紇哩(二合)字門。從字流出無量光明。於一一光明道。觀成極樂世界。

聖衆圍遶無量壽佛（如觀經所說）

次に定印を結びなさい。即ち觀想しなさい。（修行者の）身中の菩提心は白くてけがれがない円明であることちょうど満月のようであると。

また思惟しなさい。菩提心の体はすべての物を離れている。五蘊十八界十二処及び主觀と客觀も無い。

それは法無我であるから、また差別も対立もない平等である。心は本不生であるが、それは自性が空であるからであると。即ち、円満清浄の月輪の上においてキリク字門を觀想しなさい。字から計り知れない光明を流出する。一々の光明道において觀想しなさい。極樂世界となり聖衆は無量壽仏を取り囲んでいと、「その有り様は）觀無量壽經に説くのと同じ

次に禪定に入り、観想しなさい。修行者の身中の菩提心はけがれない満月のように円明であることを観想しなさい。すなわち、本不生において、世界は自身であり、自身は世界である。

【一即遍照金剛不壞身】

●次 本尊加持

如是念誦修習三摩地已。欲出道場。即結本尊印。誦根本陀羅尼七遍。以印頂上散。即誦讚歎真言。讚歎真言已。次結普供養印。誦廣大不空摩尼供養陀羅尼。又獻闕伽。心中所有祈願啓白聖衆。唯願聖者不越本誓成就我願。

このように念誦し、三摩地を修習し終わって道場を出ようと

するときには、即ち本尊の印を結び根本陀羅尼七遍を唱え印を頂上に散じて、即ち讚歎真言を唱え讚歎真言を唱え終わって、次に普供養の印を結び廣大不空摩尼供養の陀羅尼を唱えなさい。また闕伽を献上して心中のあらゆる祈願を聖衆に申し上げなさい。

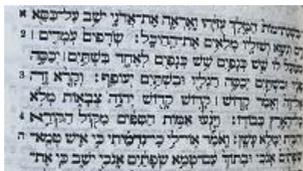
ただ願わくば聖衆本誓をあやまたず。私の願いを成就させたまえと。

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマール

カドーシユ カドーシユ カドーシユ

ヨッドヘー ヴォッドヘー ツェヴァオット



メロー　ホル　ハアレツ　ケヴオドー

ギヤーテー　ギヤーテー　ハーラーギヤーテー
ハラソーギヤーテー　ボージソワカ

●次　散念珠　任

佛眼咒

唵没駄路左寧娑縛賀　二十一返
オンボダロシヤニソワカ

諸真言意樂

オンアビラウンキャンバザラダドバン
ノウマクサマンボダノウバク
オンマイトレイヤタタギヤヤソワカ
オンコロコロセンダリマトウギソワカ
オンアマリタテイゼイカラウン
オンバザラユセイソワカ
オンバザラダラマキリク
オンアロリキャソワカ
オンロケイジンバラキリクソワカ
オンマカキャロニキャソワカ
オンアマリトウドハンバウンハッタソワカ
オンサンザンザンサクソワカ
オンカカカビサンマエイソワカ

オンサンマヤサトバン

バンウンタラクキリクアク

オンマカラギヤバゾロシユニシャバザラサトバジャクウンバン
コクソワカ

ノウマクサンマンダバザラダンセンダマカロシヤダソワタヤウ
ンタラタカンマン

オンソバニソバウンバザラウンハツタ

オンアマリテイウンハツタ

オンシュチリキヤラロハウンケンソワカ

オンバザラヤキシヤウン

オンソラソバテイエイソワカ

オンシュリマリママリシユシユリソワカ

オンキリクギヤクウンソワカ

オンマカギヤラヤソワカ
オンバラバラサンバラサンバラインジリヤビシユダニウンウン
ロロシヤレイソワカ
オンイシヤナヤソワカ
オンインダラヤソワカ
オンアギヤノエイソワカ
オンジリチエイソワカ
オンバロダヤソワカ
オンバヤベイソワカ
オンバイシラマンダヤソワカ
オンボラカンマネイソワカ
オンビリチビエイソワカ
オンアニチャヤソワカ

オンセンダラヤソワカ

ノウマクサマンダボダナンギヤラケイジンバリヤハラハタジユ

チリラマヤソワカ

ノウマクサマンダボダナンノウキシヤダラニリソダニエイソワ

カ

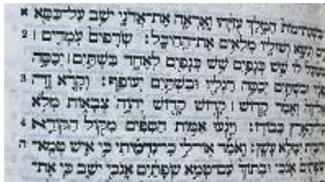
オンロキヤロキヤキャラヤソワカ

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェエカラー ゼエルゼ ヴェアマール

カドーシユ カドーシユ カドーシユ

ヨッドヘー ヴォットヘー ツエヴァオット



●次 飲食・燈明 此二供不能取手故唯觀念 所作及真言如前三供行之

●次 結獻闕伽香水印。

以二手捧闕伽器。當額奉獻。

誦真言 唵麼折路娜誑吽 三遍。

オンバゾロダギヤウン

想浴聖衆御口。

伽陀曰

至心奉獻嗽口香水

唯願本尊哀愍納受

護持弟子當賜成就

闕伽真言曰

曩莫(入)三滿多沒馱喃(引一)誑誑曩三摩糝麼娑嚩(二合)賀(引)
ノウマクサマシダボダナンギャギャノウサンマサンマソワカ

由獻闕伽香水供養。令修行者三業清淨。洗除一切煩惱罪垢。
從勝解行地。至十地及如來地。當證如是地波羅蜜時。得一切如
來甘露法水受與灌頂

●次 後鈴

●次 本尊讚 即誦無量壽如來讚歎三遍。讚曰

曩謨(引)弭多婆(去引)野(一)曩謨(引)弭多庾曬(引二)曩謨(引)
曩麼(引)進底野(二合)麁拏迦囉答麼(二合)寧(引三)曩謨(引)弭
多婆野爾曩野帝母寧(引)素佉(引去)嚩底姪(二合)夜(引)爾多嚩
弩(鼻聲)劍婆野(引)素佉縛底孕(二合引)迦曩迦尾啣怛囉(二合)
迦(引)曩喃(引六)麼弩囉唎(引)素蘂多素帶(引)囉稜(去)訖哩(二
合)耽(引七)多嚩室囉(二合)夜(引)答鉢囉(二合)體多麼拏寫地麼
(上)多(都各反八)鉢囉(二合)夜(引)弭擔(引)麼護麁拏(上)囉怛
曩(二合)散左琰(引九)

ノウボミタバアヤ ノウボミタユセイ ノウボシンチャ グ
ダキヤラ トウマネイ ノボミタバヤ ジノウヤテイ ボネイ
ソキヤ バチンヤ ミタバドケンバヤ ソキヤ バチヨウキヤ
ノウキヤ ビシツタラキヤノウナン マドラマンソギヤタ ソ
チイラ リヨウギヤリタン タバシラヤ トウハラチタ グダ

シヤチマタク　ハラヤミタン　マコグダ　アラタンノウサンジ
ヤエン

●次　四智讚

唵曰羅薩怛嚩僧葉囉賀嚩曰羅囉怛曩摩弩怛藍嚩曰羅達摩譏耶奈
嚩曰羅羯麼迦嚩婆嚩

オンバザラサトバソウギヤラカバザラアラタンノウマドタラン
バザラタラマキヤヤタイバザラキヤラマキヤロハンバ

उं व सु म व सं ग न व सु र व म ध य ऽ र सु
ॐ म न म व र सु न म न र व

修行者毎日三時。常誦此讚歎佛功德。警覺無量壽如來。不捨
悲願。以無量光明照觸行者。業障重罪悉皆消滅。身心安樂澄寂

悦意。久坐念誦不生疲倦。心得清淨疾證三昧。

ビルシャナブツ　ビルシャナブツ　ビルシャナブツ

ヴェカラ　ゼエルゼ　ヴェアマ

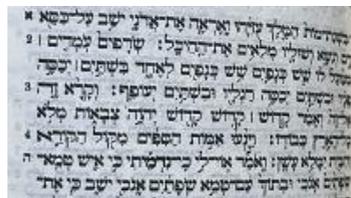
カドーシユ　カドーシユ　カドーシユ

ヨッドヘー　ヴォッドヘー　ツエヴァオット

メロー　ホル　ハアレツ　ケヴオドー

ギヤーター　ギヤーター　ハーラーギヤーター

ハラソーギヤーター　ボージソワカ



●次 普供養

結廣大不空摩尼供養印。二手金剛合掌。二頭指蹙如寶形。並
豎二大指即成。誦廣大不空摩尼供養陀羅尼曰

唵(引)阿謨(引)伽(去)布惹(自擲反一)麼拏鉢納麼(二合)嚩日(二
合二)怛他(去)蘖駄尾路(引)枳帝(三)三(去)滿多鉢(上)囉(二合)
薩囉吽(引四)

オンアボキヤホジヤマニハンドマバジレイタタギヤタバヒロキテ
イサンマンドハラサラウン

うん ずん せん ぜん げん げん げん げん げん げん げん
ん げん げん げん げん げん げん げん げん げん げん

此廣大不空摩尼供養陀羅尼。纔誦三遍。即成於無量壽如來集會及微塵刹中。雨無量廣大供養。所謂種種塗香雲海。種種華鬘雲海。種種燒香雲海。種種天妙飲食雲海。種種天妙衣服雲海。種種摩尼燈燭光明雲海。種種幢幡寶帳寶蓋雲海。種種天妙音樂雲海。普於諸佛菩薩衆會。成真實廣大供養。皆由結印誦此真言供養故。獲得無量福聚。猶如虛空無有邊際。世世常生一切如來大集會中。蓮花化生得五神通。分身百億。能於雜染世界。拔濟受苦衆生。皆安隱利益。即於現世受無量果報。當來得生淨土。次應澄心定意專注一緣。觀無量壽如來。了了分明如對目前。具諸相好。并無量眷屬及彼刹土。念念忻慕。現前獲得三昧成就。虔誠一心願生彼國。心不異緣念念相續。

●次 三力偈 金剛合掌

以我功德力 如來加持力
及以法界力 願成安樂刹 普供養爾住

●次 祈願 金剛合掌

至心發願 真言教主 大日如來
兩部界会 諸尊聖衆 護法天等
所設妙供 哀愍攝受 護持弟子
滅罪生善 無邊善願 決定圓滿
決定成就

●次 禮佛 金剛合掌

南無摩訶毘盧遮那

南無阿閼佛

南無寶生佛

南無無量壽佛

南無不空成就佛

南無四波羅蜜菩薩

南無十六大菩薩

南無八供養菩薩

南無四攝智菩薩

南無金剛界一切諸佛菩薩

南無大悲胎藏界一切諸佛菩薩

殊には

南無紅顔梨色阿弥陀佛

南無大聖觀自在菩薩

ビルシャナブツ ビルシャナブツ ビルシャナブツ

ヴェカラー ゼエルゼ ヴェアマール

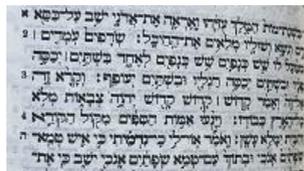
カドーシユ カドーシユ カドーシユ

ヨッドヘー ヴォッドヘー ツエヴァオット

メロー ホル ハアレツ ケヴォドー

ギヤーテーター ギヤーテーター ハーラーギヤーテーター

ハラソーギヤーテーター ボージソワカ



●次 迴向 取珠爐 金一打

所修功德 迴向三寶願界

迴向三界天人 迴向一切神等

迴向一切精靈 迴向聖朝安穩

迴向自他法界平等利益

迴施法界 迴向大菩提

●次 迴向方便

至心迴向

懺悔隨喜勸請福 願我不失菩提心

諸仏菩薩妙衆中 常為善友不厭捨

離於八難生無難 宿命住智莊嚴身
遠離愚迷具悲智 悉能滿足波羅蜜
富樂豐饒生勝族 眷屬広多恒熾盛
四無擬弁十自在 六通諸禪悉円満
如金剛幢及普賢 願讚回向亦如是
歸命頂礼大悲毘慮遮那仏
誦供養發願已。

●次 解界

即結前火院印。左轉一匝解前所結界。復結寶車輅印。以二大指向外。撥二中指頭。誦本真言奉送聖衆。

●次 金剛火院界

マカバから計り知れない光炎を流出すると観想しなさい。マカバが左旋すれば金剛墻の外側において、光りの火炎があつて取り囲み、堅固で清浄なマカバの光明火界となるを解放せしむ。真言にいう。

オンアサンマギニウンハッタ

うんれれんむんるん

●次 金剛網

頂上にてマカバが左旋し解放せしむ。

真言にいう

オンビソホラダラキヤシャバザラハンジャラウンハッタ

獅子、及び様々な毒虫はつき近づくことができない。これ左遷し、解放せしむ。

●次 地界金剛橛

いま、ここに マカバの光明が金剛杵のようにあらわれ、堅固金剛厥の光りの坐となる。これを左旋し、解放せしむ。

即ち、真言にいう。

オンキリキリバザラバジリホラマンダマンダウンハッタ

うんけいけいけいばざらばざらばままままままま

この真言を唱え、大地に不思議な力を加わる。自身のミクロなる金剛輪際に至るまで、金剛のように壊れることのない地界となる。大力の諸魔も地界を揺り動かす事はできない。修行者が微力なれども大いに成就を得る。

地中のあらゆる穢悪のものは、この真言の不思議な力によって清浄となる。その結界は修行者の心の深度に応じ、これを左遷し、解放せしむ。

●次 淨三業

修行者は、刻々の自身をあるがままに觀想（自己凝視）しなさい。

すべての生きとし生ける者は、その本質は清浄である。しかし、煩惱によって、真理を見失っている。

自己凝視という觀想を迷失してきたことが、煩惱を生み生死の苦海に溺れ苦しむことに至っている。

如来とあらゆるいのちの不生の佛心が刻々と加持感応同交（互換重合）していることをあるがままに自己凝視する觀想に

入りなさい。

即ち、浄三業の真言にいう。

オンソハハンバシユダサラバタラマソハハンバシユドカン

うむんてんむんてんむんてんむんてんむんてん

この真言の不思議な力が観想（自己凝視）に加わり、清浄内心の澡浴となる。

●次 佛部三昧耶

中央の頭上から無量光如来の光りが降り注がれていることを観想しなさい。

即ち、真言にいう。

オンタタギヤトウドハンバヤソハカ

うんぱんぱんぱんぱん

如来が来りて修行者に不思議な力を加え、守護し、速やかに修行者の働きは清浄となり、罪障は消滅し、福德と知恵が増す。

●次 蓮華部三昧耶

頭上の右に観自在菩薩の光りが降り注がれていることを観想しなさい。

即ち、真言にいう。

オンハンドボウドハンバヤソハカ

うんぱんぱんぱんぱん

観自在菩薩および蓮華部の聖衆が来りて修行者に不思議な力を加え、対話の働きが清浄となり、慈悲深くなる。

●次 金剛部三昧耶

頭上の左に金剛蔵菩薩の光りが降り注がれていることを観想しなさい。この光りがマカバ（金剛）となる。

即ち、真言にいう。

オンバゾロウドハンバヤソハカ

うむんまむんまむん

金剛蔵菩薩並びに金剛部の聖衆みな来って修行者に不思議な力を加え、心の働きを清浄にすることを得さしめ、修行者は菩提心が現前して、速やかに不生の仏心を開く。

●次 被甲護身

修行者の身の五処がマカバの光明に充たされることを観想（自己凝視）しなさい。

礙することができなくなる。悪人からは遮断される。

煩惱や業障が身に染めつく事はなく、現象と潜象における多次元世界の諸の世界において、苦るしみから解放され、速やかにこの上ない安らぎを得ることが出来る。

● 観想法次第 了

● 次 常應讀誦

大樂金剛不空真実三摩耶經般若波羅蜜多理趣品

(任 無量壽經。勿懷上慢意樂精懃念誦。印佛印塔樂行壇施。修持禁戒忍辱精進禪定智慧。所修善品皆悉迴向。共諸衆生同生淨土上品上生。證歡喜地獲得無上菩提記莖)

●次 無量壽如來心真言

唵(引)路計濕嚩(二合)囉囉惹訖哩(二合入引)

オンロケイジンバラアランジャキリク

此真言誦一遍。敵誦阿彌陀經一遍不可說遍祕故勝故。破重障難
(不能具說)

唵阿蜜慄(二合)多帝洩賀囉吽

オンアマリタテイゼイカラウン

此法通一切蓮華部 無量壽如來念誦法。誦十萬遍滿。得見阿彌
陀如來。命終決定得生極樂世界

●次 無量壽如來發願陀羅尼

迦哩迦噲沙迦哩多爾也爾魯計(一)摩以爾針多睹(二)尾母唧旦都
魯迦(三)麼麼左素左哩帝曩(四)昨薩縛怛縛(二合)跛囉麼素契曩
(五)素佉縛底孕(二合)鉢囉

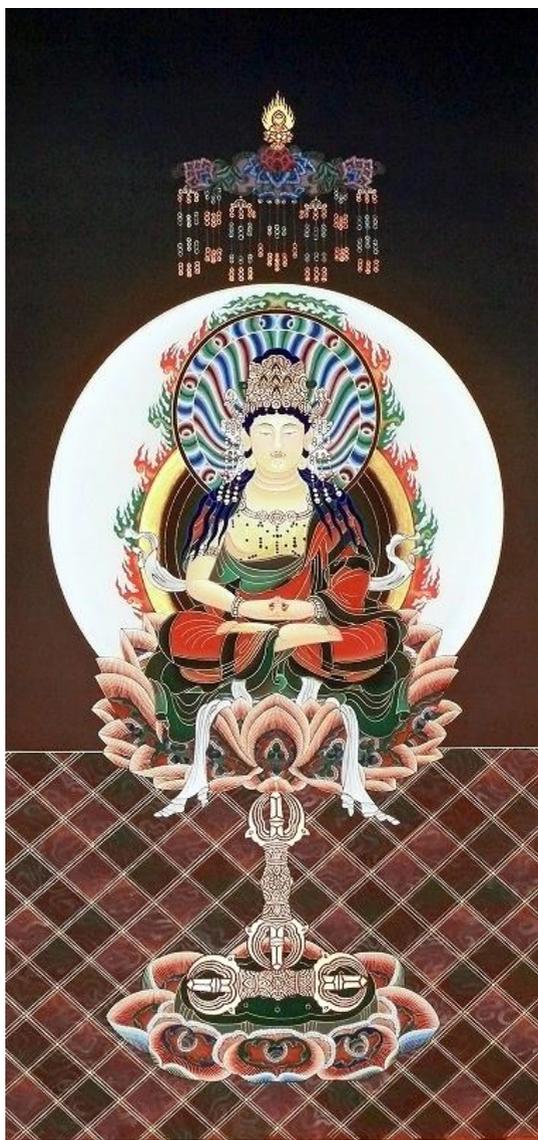
《遍照金剛空海秘傳紅頗梨秘法次第》



無量壽佛 阿弥陀如来

法圓寺 龍雲好久秘佛

紅玻璃色無量壽佛阿彌陀如來



龍雲好久勸請

佛無量壽佛を預顯し導かれた
阿弥陀如来



龍雲好久勸請

正徳寺本尊阿弥陀佛



補陀洛山善明院歡喜寺秘佛